

10

10

11.24. 5.11
~ 6.30

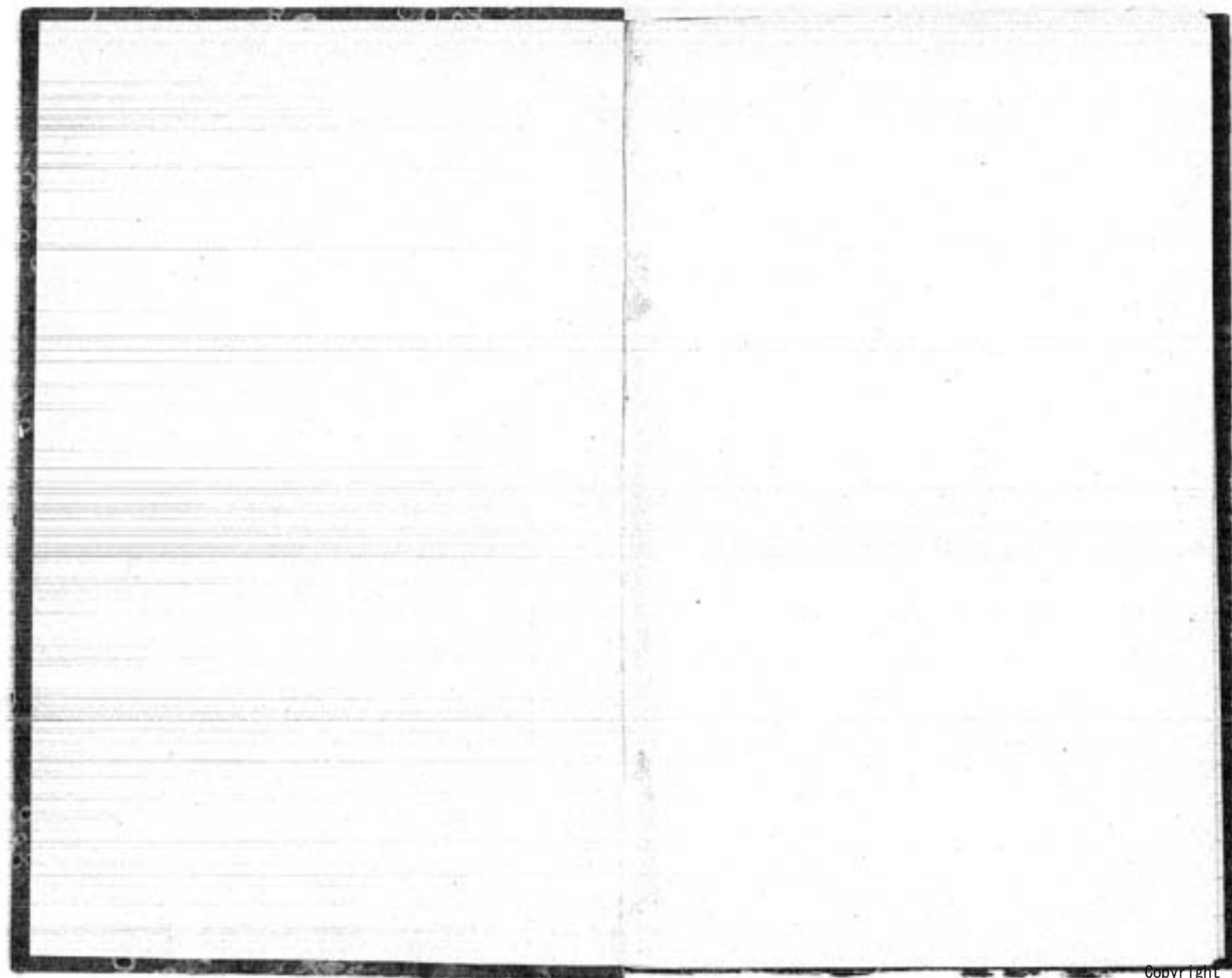
うきよたび

明治二十四年

五月十一日

至六月三十日

第十



う
ち
よ
う
な
び

十
之
巻

明治二十四年九月十一日 (月)

午のヨリ暮テ月を連集見物ノ縁路アリ
送家二年と四人連にテ車ヲ飛シテ山
王斗北ニ至ッテ木子等ヲ待テモ来
ラズ試に見物セシ云フ目的ナル茶寮
ヲ音ハバニハ斗リ別女嬭出来ハ進ソ
来ハセナンダカト向ハバ進モ出ナシ云フ
即ハヤ待ツフ月フー時ヲ河合ハ好色家
余ハ有情家山下ハ多情家 霜ノ凍水ハ
冷冷家ガララ流流ハ下等極マツタ
所ヲ知ラズ 船ヲ山王ヲ去ッ 永田町ノ
大野先生ヲ訪フ先生ハ鹿嶋島ノ人海軍
大佐大野氏ノ婿ナリ庭屋ノ家清ノ体
裁頗ルヨシ芝ヲ養里ノ密店ヲ受ケンヤ
彼ノ揮毫ニカハ皇族陛下ノ内府係ヲ
お見ス大々通市人ニ坊シキ藝匠ヲコメ
ル密店ニ入リ内色澤ヨリ内服甚突然
面ヲ拝シ奉ルカ如シソノ他フスマ、鹿角
戸障子ノカサナク先生ノ筆アリ先生ハ今
夏屋一面ニ表景ヲ畫キア寮ニ一亭ヲ進
上セント云ヘリ画家モ中ノ気楽トモノ
ナリ先生ハ四人ニ酒ヲ馳走ス山下ト

真水ハ リキール 余ト夕会ルコンニヤクヲ
飲ニ主客微酔ス四時別テ支クテ
归邑就寝(余ハ馬士也所ハ山田弘ニ
行ヒ次ニ中條氏ヲ行ヒ次ニ真水ヲ
行ヒ其ニ後津大吏ノ間ハ為ヤカカ
余ハ痛楚烈ニハカノ家ニ行ナク)
夕飯ノ後仁科光三郎ノ兩妻来ル
甚刻ノ言ヲ云フ後兩客別ル余ハ足
ト酒ヲ酌ム飛騨アリ日ク

露国皇太子大津ヲ
狂漢ニ死津田氏ノ為ニ
傷ケラル

ト兩人大智ヲ施シ評論スルヲヤリ
コノ日ヨリ物情騷然ナリ

十二日 (火)

七時半家ヲ出テ写生ニ芝山内ヘ赴キ
勉強ニ景色ヲ施ス希客群集甚クナル
サレ。而シテ余ノ傍ニワイ辰ヲ餘念ナ
見物スハモハ多クハ劣等汚穢ナル下等
人民ニナルニハ實ニ閉口セリ。只愉快
ナリハ何原ノ令嬢ニナリテ余ノ
画ヲ見物セリ姉ハ十八九才妹ハ十一ニ
オモイ深ク画ヲ好ムト見ヘシバラク見トシ
タリガ姉ハ余ノ傍ニスリヨツテ (凄子)
「マー大層ウエ派ニ出来マスコトヲ平
シタリ余ハ思ハズ」フリ向キテ顔ヲ見合セ
「ドーモ甚ダ未熟デ……」ナンカト云ヒタ
リ妹ハ「姉サソヨリ上手子」ト姉ニ向テ
無心ニ向ヘバ姉ハ「ソリヤ一餘程ウ
上手デイラッナルヲ」ト云ヒタリコノ際
余ハ筆ヲ運ビタルモノノ筆ハ何トナク浮キテ
洗氣ナカリニぬメ大ニ画ヲ損ゼリ。ドーモ
春氣ニナルト人ノ心ガ浮カフイデイヌモ
ナリ。画ノ真相ハ高尚ニシテ優美ナルベシ
故ニ画家ガ自ラ高尚美麗ニ優美ナル
春時ガ愛慕高尚氣カサナキヲ神念ナレ

事案ハ昼休ニ又ハ馬鹿況ヲスル
モ春梅カ色ヲ出シテ四人ヲ後来妻
計。何所ハ何ウヌッ娘が長〜年ハ何
オデ嬢路バドウ何カ何マデ分ッ室
價が一銭トハトンダ落シ出シヲ

三時一同引キ上ケ余ハ山々引一ツ
ヒ次ニ中集ヲ引ヒ次ニ直ルヲ引共
ニハ川岸、橋、橋ト幅廣同ノ賣ナ
ニ余ハ歯痛烈ニキエヨリ家ニ归ル夕食
頃ヨリハ妹来リ次テ服布来リ有為等
方針等引ハ親役アリ興トシテス
馳走ス兩度十時归ル余等酒ヲ
飲シテ大い寒シタルモ余ハ歯痛、為
可シ引ハ百リ十一時迄、〇〇

用
一
六



十三日(水)

例如く五時 帰宅マ宇佐久まゝ
園材来りて居たが一時 乃余ハ園
材ト是ニ就テ出テ津保町ノ沢田町
ニ至リタリ今夜ハ辰野氏送客事也
總代トテ露園令子欠舞ある京都へ
赴クに併九時迄マテニ新橋へ行キテ
彼ヲ送ラサルハカラズ然レバ時ハ早キ
ヲ以テ直ルヲ請フニ併今日ノ送客事
余ハ赴キタル欠ハ予在リ即ハ山に居
一ヲ請フニ併 乃内御家ト云フモ、来リ給
セ山にト大ケキ同友セリ山にハお前、
及ハサルカ如キ体裁アリ疎客ナリ次ヲ田
中、即玉、西人、来リ大ニ座トシ余ハ
ハテ歸テ新橋へ行テ辰野氏ト見ヘシ
無慮計十名 学生ハ五人ヲ辰野氏同
車ハ黒田侯爵 津田真道氏ト云リタリ
辰野氏送客ニ至リて余ハ辰野氏ハ
野氏ト同車ヲ本邸へヨルハ其ノ後
彼ニ別送ラス 彼ハ大ナルオナリ事ヲ
智ナク識ル 余ハ彼ヲ看シテカハト
思ハレハ余ヲ憐ルニテ知レリ (ト云フ)

然しラウ法、一際、吾々ト表マシテ
相方、器量、分ルト云フ大蛇ノ喧
嘩ノ様、然レバ、實際ノ内、是レヲ、何レモハ
余ハ、劣等人ニ向フト、自レガエラ
感ゼラルド、優等人ニ向フト、何トク引
ケ目ガ欠ル。一寸、朋友ニ逢フテモ、ド
グ君、述、況ハ、如何、何ゾ、新シイ、見デモ
アルヲ、伺ヒ、度イ、位ナ者デ、ト、向フカ、直
接、法ヲ、キノ、ヒ、コッ、デ、ハ、サ、レ、ク、引、ケ
目ニ。併ニ、相手ガ、劣等人、ト、余ハ、忽チ
、取、リ、テ、曰、ド、グ、隊長、氏、ト、次、ハ
、ア、替、マ、ス、勉、強、シ、居、ル、カ、チ、何、ゾ、面
、白、イ、ハ、シ、イ、ナ、イ、カ、チ、金、ノ、儲、カ、ル、張、リ、ハ
、ナ、イ、カ、チ、ナ、ド、ト、平、氣、デ、云、ヒ、得、ル、ナ、リ

余ハ、カ、野、氏、ト、云、フ、テ、サ、レ、タ、リ、余ハ
、家、ノ、内、モ、興、ナ、シ、恩、ヒ、奮、然、(何、ガ、奮、然、
、ナ、リ、ト、云、フ、鳥、又、ト、云、フ、夢、ナ、ク、入、リ、
、タ、リ、ロ、ハ、デ、女、ヲ、サ、シ、ハ、酒、ガ、氣、ニ、入、リ、タ、ル
、ヲ、見、デ、モ、ナ、イ、ガ、又、ソ、レ、モ、無、イ、デ、ハ、ナ、イ、ナ、リ、
、余ハ、酌、女、ト、云、フ、向、ヒ、ニ、テ、飲、ミ、タ、ル
、ガ、余ハ、野、薺、ナル、コ、ト、ヨ、余ハ、絶、ヘ、ス、
、ウ、シ、ラ、ス、ル、ヲ、街、ヲ、知、ル、ガ、リ、ナ、リ、

1987年
1月

十四日 (木)

例儀、五時過ぎ帰宅ス夕刻沙内
 持是来訪マ珍客トルハ余ハ極ナク
 喜ビテ色ニラカスヘリ中村34-
 来訪ス。内村归ル。ヤガテ田
 山岡、中山来訪ス。中村ハ余、豆
 油取リテ賣ルキ、キツト云ヒテ笑ヒ
 興シタリ左モアリタ。九時又主客
 共ニ蕎麦ニ出リ見、今朝コノ田中
 多田ト花ヲ合セ勝負ニ由リテ酒肴
 オゴリ大ニ酔ッテ倒リ伏シタリ之
 時頃那所モ来リ由ナカ。日暮
 那所多田、田中男归リタ。萬也様
 由リ中村ニハリ再ヒ来訪ル余ハ
 見テ喜ビテ共ニソバニ入リ少
 解リ笑ヒ十二時寝ニ就キタリ

廿二日(金)

归屯(五時半)後一里を歩て原
郷ヲ編纂シテオ暇ナシ山林、山号来
リテス因テ原郷ノ草ヲ採ルニ一
執務ニシテ星ニ九時半迄キテ出
セリ夫レクニ至リテツバキナ山
等リル余ハ今日大ニ精進スル
ハテ直ニ見ト共ニ散步ニ出ケル
虎テ牛肉ヲ食ヒ酒ヲ飲ミテ元氣
ヲハ十二時归屯シテ寢ニ就キタリ

十六日(土)

今日ハ土曜ナレモ學務爲メ午五時ニテ
在室ス中ニ感心ナモノガ一冊電後夕食
浴ヲ沐浴シテ休息、後山岡ヲ訪フニ
田中、中山、布宅、宗兄、来リテアリ、先月
豆阿弥リ連中諸ヲ集メタル所一円
嘉ヒテ就テ登スコレヨリ芝キ足ハ田中ト津
田ニ於テ疾ヌト幸ナキ不幸ナルト、
大磯海ヲナセト云、余ハ山岡カ旅リ所
ヲ其大ニ興アリ又彼カ网友ハ画ヲクツテ
ツル彩画ヲ見ルニ中々面白シ山岡ハ
スジョウ駄走ニ布衣ニ強テ食物大博士、
尊号ヲ蒙ヘント興ヲ荒アリ田中ヨリテ
セザハス、街ノ境ヘテ中山ハ今日沈黙ナリ
健ハ時ヲ性ヲ愛スル新人ナリト知ルベシ
十時一全山岡ヲ附シテ別ル余ハヨ中ノ
更ニ酒ヲ飲ニ原稿ヲ草メテ路ヲ
ニ時獲ニ付テ

十七日(日)

今朝朝寝授正来ル即チ九時起きテ
授正ニ從子ニ正午に至ル即チ又トサレ
ヲ焼キテ酒ヲ飲ム服中氏来リ大ニ驚キテ归
リ去リ一ハサレコトヲ煮ル奇ニ驚キ一ハ昼
間見オテ酒飲ムハ驚キタルモト又ユ一ハ
カ余ハ晝授五時迄キマテ起テ製
園セリ日暮夕食ヲ終リ授正ヲ提テ神保
町ノ松井ヲ一赴キ来リヨリ神保町ヲ過
ギシカ川町ノ餘草紙ヲ冷カシ北角ノ美
人ニ見トナドセリ来リヨリカ川亭ノ茶へ出
ガ見レバ日比望ニ及ニ接シ助ナリ即チ
夕ハ諸置キテ入場ス

駒之助	和泉之部館長	75
小縁	百五平家殿	88
鐵之助	時元三ノ切	90

小縁ハヨリ聞テハ聞テ程好味ガフル
コ点ハ駒之助ト及舞ハ十時ハ子同金
川山亭ニ立テ茶ヲ帳圖ヲ贈ヒ家
リヨリ冷酒ヲ飲ム之合日記ヲ認カ
ソテ十二時迄キ寝テ就テ今夜モ面白
キ夢ヲ見タリソレハ何カ大夢毎ニ色々

催しアリ殊ニ和洋ノ慶女ヲ等々ノ打交
リテ舞蹈スルヲ見物セシハ愉快ナリ
当日直野教授夫人ト愛鳥トアリキツレ
既席アリ多少周旋セリソ愛鳥角川第
盛會ニテアリシ。余ハ其ノ如キ盛會、
盛會ナド俗人ノ群衆ニ賑ヤカナル
夢ヲ欠ルハ必畢神心ノ俗ニシテ斯ル
キヲ好ムカ故ニ外ナラズ高潔純正、
藝術家ニハ似合ヒカラス余ノ如キ
凡俗ノ似而非藝術家ニハ相成シタ
ルヲナリト矢ルベシ 噫吁——。

十八日 (月)

五時より帰宅して夕食外散歩に出
ケタリ今夜ハカ川亭へ赴キ睡る
カ朝顔日記ヲ箇レモントブラクト
カ川所に向フニ途中中修持一ツ
逢ヒテ素直ヲ果サス二人テ流石
ニカラ九段下ニテ散歩シ余ハ直水
ヲ流フコト死ナリコトハカ川亭へ赴キ
ムルナレバ余ハ改イテカ川亭へ赴キ
途中又ハ足に逢ヒテ素直ヲ果サス
終ニ兩人ヲ田中ヲ流ト夢ノ如ク
ドニ快ヨクスルヲ食ヒ酒ヲ飲ム十
時頃ハ夕陽ニ家ニリヨリテ寝ニ就キ
タリ

十九日(火)

八時起キ例儀ノ車ヲ飛テ芝山ノ
ヘ男宅ニ赴ク今日ハ別嬪多ク来ラス
乞食様ノ汚物ハ余ノトマキタルニ
困却セリ一室余ニ向テ曰ク、矢張りガ
ソノ位ハ画ハ若干紙画キ玉フヤ、余曰
ク余ハ商賈人ナラバ相場ハ知ラズト彼
曰ク畧モ画ヲ門ノ人アリヤ余曰ク蓋シア
ン彼ハ浅草ハ欠セヨ、依ニ計画ナドヲ
示シタルモ一理ナリ又一人ア曰ク斯ルハ
モ画ハ學ヒ易キヤ否ヤ余曰ク甚タ難カラズ
曰ク一年モ習ヘバ如何余曰ク天性画
ルアラバ可ナラン也、然レ…昼休ニ
河合辰ヲズニテ於テ淋ニ余ガ河合ノ代
理位ニモハテテ於テ、後、我々、音
曲ヲ持キ切リナリ就中後モ助ノ手
尤モ多ク出テタリ三時止引キ上ケ余ハ
江戸ノ三層河ニ行フ不在ナリ即ハヤ
帰宅ニテ欠レハ江戸ニ見テ飲セリ余
直ニ仲買入ラス江戸例ノ如ク愉快
ニ於テ於テス彼ハ今ハ畢竟堀切ヘ出
ケタリトノ彼ハ當藩ト馬寮トノ土產ニ

予余に遇り余深々彼カ友情に謝せり
 へ得る彼速に懐き定まり即ハヤ彼に
 先日將に執事なりたる判調にしがすし
 行違ひの破れタツトノ今ハ依りて同キヲサ
 へ遣遣ヤル言ハカリサツ本人ハ。彼カ
 大金ヲ抱テ不事ヲ屬ムルモ無理ナラス。
 次ノ齊テハ彼レ二人ノ妹ヲモ如卿
 ツボツ装ハレノ自ラ色男ヲ装ヒ給ラニ
 女木ト戯しつゝ寄カシテ往來人ヲカツギ
 テ案じしに中山等に出逢ヒタル次、
 一大奇譚ハ江原氏ノ足船曳氏ノ子ハ
 大七及、藝妓ニ名押シカ来リ氏ト百々
 色シル子ヲ引キ取り莫シトノヲ判調ニ江
 原氏ヲ判掛トナシ拘サレ止ムヲ得ス
 ニ頭立ヤ昌車ヲスツ兩女ヲ飛島山ニ
 誘ヒ藝妓ヲ面ダ一先ツ彼等ヲ大七及
 引シヤタル手際巧バシ。彼日ノ余
 カ放蕩ハ余カ極ヲ得ルノ一手段ニ余
 ハ放蕩ノ向ニ帝ニ已ラサレタツ忘ス者
 然ラスレバ余ハ無賴ノ曲漢タラシト
 彼レ心事ヲ候ル甚タ切ナ余等也ヲ
 聞テ大ニ感スル所アリタリ彼レ例由テ

義大丈つうな十時三人家へ出テ終
夜、あつ張ランツ、企テ先ツ往与テ
芳原ニ入ル見ハ非常ニ不賛成ヲ表シ
大門ヲクバラスト云フコレ彼カ娼女ニ
呼ヒカケラル。三度ハバナツ去シハ遊廊
中モ往來ノ正中ヲ歩テ決テ店ニ近
カス。余ハ二年ブツニテ来リ見ルニ相カフ
ラズ奇麗ナレモ美人ト云フベキモノ一人モ
ナキハ奇キタリ。マア我慢カ出来ト思フ
モノサヘ指ツ屈スルニ違ハス左モユキ代物
ハトク賣シタルナランカ。好まハ此ヒ有ハ
余ノ衣ヲトリチヲトラヘテ陸ユルツヲ禁セラ
レ大ニ便利ニナリタリ。遊廊中残ル魂ナ
ク冷カシ殘クニ大門外ノ一カ飲食
店ニ入ル時已ニ十二時ヲ過ク三人大ニ
飲ム見余ニ問フテ曰ク御コノ地ニ来ニ
蓋シ初メナラン余曰ク已ニ此回ヲ起
ヘタリ而シ一カハ登揚セリ然レモ登
揚セテ揚没ヲ視察セリニ於テ怒ヲ
逞ツセズ云ハト見大ニ奇キタリハモ可笑
シ場所ガヲテ三人ハ *fegeem* ノ聲
ヲ發シ餘ヲヒ江原ハ興ニ致シテ

アル料理店、花ヲ Tackter 50 鐘ニ
fegern セシ 14 Yakre 2 赴味亦
換別+トイ受キ石坂岡以 2 7 1 一夜ニ
12 male fegern セシモ平氣+リシ
等ヲ後ルニ 2 時ニ至ツテ余ハ睡ルニ
烈シキ驚ハル 聲ヲマラズシテ假睡ス
江原次ヲ倒レ 兄一人 陣リシガ 3 時
サレ過ルヒ 聲ヲマラズシテ坐睡セリ
凡ツハ 1 1/2 hour ニテハ 常ニ 徹夜シテ
客ヲ迎フヲ倒トス 直ニ 1 2 時ニ至
ト云フベキ乎 今日ノ奇甚ハ 余永ク
之ヲ忘レサルベシ

二十日(水)

午前四時余起キ出テ四時半足起キ
五時に江戸起シ、中へ一客アリテ
入り来ル。蓋し今、橋ヲ去ルノ妻ナリ余
等ハ大群、必、非常ニ疲シ兄ノ如キハホ
ンヤトシテ殆ト氣力ナリ江戸新大ニ
弱レリ。昨日六度ノ *fever* ト最、其
強ニモ、此ズ余ハ今、十オ、十見ダモ
倒ス、力ナシト云ヘリ。五時四十分、同底ヲ
出ツ、婢笑フテ曰ク、即、君等、降、臥、テ、置
揚、ヲ、忘、レ、タル、乎、昨夜ハ、娼、女、モ、
即、君、ヲ、切、ニ、待、タ、ル、ナ、ラ、ン、ト、余、等、ハ
戸外ニ出ツルバ、芳原、朝、景色、見、レ、タ、モ、
ニ、此、ス、同、様、ケ、タ、ル、顔、ノ、世、路、其、ドウ、息
子、ヤ、
番、頭、不、量、氣、ナ、振、子、ニ、テ、リ、ル
モ、引、キ、モ、キ、ラ、ズ。余、等、三、人、モ、孤、ニ、ケ、ツ
ホ、ラ、レ、タ、ト、云、フ、面、体、ヲ、漢、第、方、ハ、短、リ、行
ク、路、傍、飲、食、店、已、ニ、客、多、シ、公、園、内
ニ、テ、水、ト、テ、飲、ミ、テ、大、ニ、笑、ミ、タ、後
シ、上、野、リ、脱、車、ヲ、倒、フ、家、ニ、歸、リ、余、ハ
朝、飯、ヲ、殘、リ、冷、酒、ニ、杯、ヲ、代、ヘ、テ、登
校、シ、見、ト、江戸ハ、舊、ヲ、訖、シ、余、ハ、ハ、時

登校して満腹にツラ睡たが七時頃
「リス」笑ふれ都、若衆に欠けり家の
二人ヨリ眠りたり家の婢等、金等
が烈しく *fegeen* したる、結果トシテ
痴に笑ひ手スルモ可笑しかり余、
正午家に居り午台を喫して再び登校
ス二人眠いてリス若衆に婢曰クニ
公熟眠ス即君が眠り催されしか如
く余笑て曰、余は些細ノ事弱ルモ
ナランヤト婢亦笑つて去る然に余
モ食後一時間後睡セリ。四時
半帰宅ス二人已に外出セリ余ハ
室内に清ナテ一時間費シ夕飯ノ後
勤勞セントス毎々中山氏来リ遊談
凡ク三十余分其に家を出テ余ハ、
御修野へ赴キ遊談又三十余分
来戻十條橋票、湯ノ次ヲナシ
はら湯と遊談一時間半迄
キ家に帰り日記にカキ又十條橋
票ノ調査に手紙ナド思フテ時ヲ
費ス即今日ハ昨日癖失セシハ
愉快カラス亦、雨ノ用ヲ暇に促し

附申後に此キタリ〇〇日霞た
子殿下日セラ去ル 伊等ノ不備定ッ
ヤ。津田ニ此ヲ切リタル車夫ニ名
名ニ附下ヨリニヤある内ノ附金ヲ
受テ霞帝ヨリ毎年千円ヲ受クルト
ナル 伊等ノ仕合セゾナコナ甘イ
フハ 實ニナイ子、實ニ羨ミ一ツデアル
處ニ余カ通リ合セラ~~ハ~~津田ヲ
後カ~~ハ~~地キ止メタル五千円ハ大丈ま
ヤ余ハソレデ~~ハ~~平イテセシ思フナド
ウマラス 忘想ハ止メルガ望シイヨ

二十一日(木)

八時起き九時登校四時退校
宿舎に直ぐ直ぐと宿舎へ赴
キ十時後宿舎に集リ車に長谷部
源次郎氏ヲ乗セ次ニ車に跳テ津保
所ノ松井ニ立テ寄リ六時外に退キ
お田ニ着スヤレ^{（実ニイガニ一ツハアル}
今日ハ祖父カ命日ニ至ッ昔々父ヲ
是ノ持シタリ余ハ夫レヨリ年田ノ三児ヲ相
手ニ戯レ遊ビタルガ三児ハヨク余ニ親シ
前後左右ヨリ立テカル中々愛シテモナリ
七時退キ夕飯ノ後鷹ノ受ク祖父ハ余ヲ
兄弟ト三人卓ヲ囲ニテ折々解テテ話セリ
今日ハ祖父ハ余ニ建策ヲシテ後同ス余ハ
即ハサ余ノ知ル所ヲ繕述シテ其後
外所以其困難ナル所以ヨリ経費
ヲ示シバリタリ是ハ今日ハ父ノ遺言
言ハ機密ヲ得ズコト通例ト正反對ナリ
常ニハ祖父ハ余ヲ是ノ向テ誘フカ又同
ナリ余ハ父ノ遺言ハ機密ヲ得ズ然レ
今日ハ余ハ反對ナリ余ハ其後
二三人ハ彼利カレ祖父ハ其後

街ヲ移シ西次佐律等ヲ升ケタルガ併シ
一殿ニ云ハ大ニ花ナリ 叔母ハ姓振
已メ六ヶ月位ナリ 彼ハ實ニヨシ子ヲ居ル
人ナリナクハ九時半歸リテ兄ト共
ル今日暑甚シ兄ハ十時ニ至テ
スシテ睡眠ヲ催シタラ 寢ニ就キ
余ハ手紙ニ通テ思ノ月記ヲツケ
寢酒ヲ飲ミ然リ而シテ寢ニ就キ
時ニ十一時ナリ

二十二日(金)

今日ハ 天皇陛下東京新ヨリ行幸御
キ休養ニハ九時マテ安眠ニ十時登校ニテ
親同ニ従事ニ十二時御電屋飲マシメ
又ト共ニ家ヲ出テ宮城正門前ニ赴キ家
ヲ出ルルハ十二時三十分ナリ又ハ余ノ
臨刻ノ責メ余ハ又ノ余ノ勤ノ用スレ車
停メザルノ責メ又ハ互ニ風病ノ云々蓋
シテ引ノ間ハ合ハザルヲ朝ニテ爭ヒレ
リヤ元何ノ車ヲ停メ宮城ニ至ルハ
万ノ風病互ニ押シ合ヒヘン大勢ハ出
ルハ御席場ヲ設ケ置カケル清水
先生ハ大失態ト云フベシ當日最暑甚シ
毎時ハ奔命ニ暑ニ上江屋ナリ中ニ
文ハツテソノ名ニテ下ニ下ニスア

天皇陛下等ノ内身類ヲモ抑
濟ラズシテ空シク群衆ノ後ニ下ルハ
ル長島中島以下諸十ノ知レニ逢ヒ
新シク改メテ帰途ニ名、支、支、支
後、ニ氏ト同伴ス、知田原橋内ニテ
余ハ奥友喜多村孝生ニ逢フ飛ヒ付キテ
懐旧ノ情ヲ強クシテ又ハ雅智ノ際ニ

心レマカセズ直ニ顔ヲ欠合セ欠因リテ本
意ナクモ別ニタリシヲ田舎ヲ世経テ經
テ服ヲ著シ逢フ本レマテ本屯ノ永
夜ニ入ル余ハ吏ヨリ登校幾回ナリ
玉分美ニリリ休息ス抱テスキ山田
鉄先生來訪ス監センバイヲ食ヒテ
禮儀ス來者ヲ知ル是レ王珍ニ來訪
ス後一時余向余等ニ人來出
ナカハ通リ學堂ニ到リ人
表所亭ノシツヒ正一ノ手紙ヲ欠テ大
興ニ付スリ歸途足ヲ田中ヨリ月ノ章
ニ交ル此ヨリ更ニ出直ニテ余ト足
者川河ノ一ノ村ヲ地底ニ送リテ
少シ飲食ス余ハ更ニ向ヒ屯内ニ酒樽
ヲ備ヘ置クノ事ヲ了復キ且ツ節酒
ノ必要ヲ復リ足ハ口ヲ極メテ辨儀
セシガ後ニハ更ニ角モト來ツル余ハ
實ニ作裁家ニ洲ス然レモ余ハ一
向ノ學生ノ如シテ酒樽ヲ備ヘテ應
時ニ飲ムガ如キ様義ノ思ハ吾父母
等ニ對シテ相スマザンフト思フスルナリ
是レ辨儀ノ故アリモ余ハ復ニ竟タレ

實に全等足歩ハ酒飲ムハ非常ニ
字ヲ以テ平ニ居セト云フモ不可ナキ
位ナリ而シテコノ非常、飲酒ニ伴フテ
あまた、害ナキヲ知ル、ス、常ニ更ニ
量ルモノナリ、若シ余一人ニテ往フナラバ
余ハ室内ニ據リ、悔ハフ、オ、禁ム
ベシ、次に余ハ衣服ヲ世々トナリ、教
ス、禁ム、ベシ、第三、地ノ家ニ外泊
シ、若シ人ヲ以テ外泊セシムルヲ禁
ム、ベシ、(一ニノ例外ハ無ク、)而シテ
規律正シ、事ノ務ムベシト誓フ、

二十三日(土)

ハルヒモ直ニ正時 起テ朝食 10 時
夕飯 3 時 15 分 浴 1 時 15 分 用 石 1 時 15 分
洗ヒ清シ 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
弱アリ 直ニ 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
仕立ナリ 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
母 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分

大去 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分

幼々 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分

小緑 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分

後 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分

ナリ 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
後 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
系 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
常 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
入 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
此 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
是 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
後 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
幼 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分
ハ 1 時 15 分 爽快ナ余 1 時 15 分

旧年、酒を兩人酔つて真水、曰く余、
フ、何れ人、門札等、喜つ、要、新ア、余
ハ大、妻と、ま、い、余、等、う、出、お、チ、ナ、レ、
復、キ、ソ、バ、を、出、テ、大、二、抄、掠、つ、お、ン、縦、横、
無、尾、の、之、崎、何、の、跡、兵、所、に、社、の、キ、余
ハ、ま、い、何、り、多、カ、月、に、三、ワ、ケ、テ、救、つ、キ、タリ

ソ、バ、を、ノ、指、上、に、テ、真、水、ト、キ、親、密、に、
居、セ、リ、日、ノ、山、下、ハ、happy、ツ、月、会、ハ、大、二、
悔、恨、ナ、リ、ト、余、ハ、ス、ト、マ、ヘ、リ、真、水、ハ、旅、り、
一、年、少、う、預、リ、又、タ、リ、力、用、回、情、況、の、
大、い、乱、暴、放、蕩、行、フ、ナ、リ、時、機、ナ、カ、レ、
等、ヲ、マ、ツ、中、と、面、白、に

余、ハ、中、年、二、十、五、才、ヲ、預、厄、年、ナ、リ、
然、レ、モ、人、多、ク、ハ、天、に、勝、ツ、余、ハ、コ、ノ、厄、年、
ヲ、親、レ、テ、天、晴、佳、年、ト、サ、レ、
余、方、お、チ、在、リ、必、ス、キ、排、レ、ニ、至、フ、
ト、云、フ

十二、日、火、ア、リ、本、地、ニ、何、日、伊、勢、川、ト、云、フ、
鰻、を、一、後、ヨ、リ、起、シ、余、ハ、急、ニ、カ、ツ、ケ、見、ニ、早、シ、
ニ、急、氣、ホ、ン、プ、ー、ツ、リ、火、勢、Nation、ニ、盛、
威、ヲ、振、ヘ、リ、ホ、ン、プ、ハ、Remont、的、ニ、三、拒、キ、
テ、四、拒、キ、テ、一、時、ヲ、以、内、ニ、三、浦、城、に、火、ノ、身、

ナゲルハバウシホー口措キ7ナリシモノヲ
端ニ掛テ作リ、目見キニ至、山周リ
下にお入スツニ逢フ、向ヒ是處動カセテ馬
連ナリケルベシ。

假定セヨ、脚裏ニコッ火起リテ、余等、底ニ
向事ナスベキカ、余ハ直ニ書櫃ト物を
食セテ筆司ニ押込ニ金剛力ヲ出シテ之ヲ反
ミテ餘ヲスラハ、其具ヲ棄テ運ビ去レリ、余
用心周密ニ事ヲ了スルニ至リ

二十四日(日)

夜ハ目ヲツクリテハ時ガ前ニ起キ出テ今
日4時頃ニ有る時彼處ニテハ
時ハ日下ニ至ルヤカテスル

香城、服部、雪村、佐見、鈴木、伊東、山崎、
小林

余ハ此ノ時ニテハ九名ノハ
月ノ大勢ニ因リテハ此ノ時ニテハ
善ノ日ヲモ金ノ運ニテハ中大ニ下満ナ
リ正午ノ時ニテハ此ノ時ニテハ
ガ運倒ルキ故ニ此ノ時ニテハ
同ノ事トセリ何ラスハトモナク日ヲ暮シ夕食
ヲ食シ、際田中、中山、田中、三條入
リ此ノ時ニテハ金子ノ用(コト)有る時
ニテハ此ノ時ニテハ

鳴呼余ハ有る時、小使ノハ此ノ時
然レモ此ノ時、一件ハ此ノ時ニテハ小使
ノハ此ノ時ニテハ自腹ヲ切リオマケニ
下ニテハ此ノ時ニテハ金ノ運ニテハ有
る時、命ヲツナグ余ハ此ノ時ニテハ
レヲ知ル。更シモ此ノ時ニテハ伊東
アタリハ此ノ時ニテハイフモ此ノ時ニテハ
ス、モ此ノ時ニテハ此ノ時ニテハ

マシトカマツ言禁ヲカツシハカシハ
驚ハヨスガモアラレヲ之ニ交シテ有る等
ハモータンダ。一雜ラ高ハ一内ツマツキ、
アノフナツ等ヲ渡シテマヘ、一体…
役員ガ馬鹿ダカ「ナド」言言言ハル
一ト措シサ、コレ何故ハ金斗カ。
ソロ措シサ思フ金ガ心カシ驚シテ
受レ玉ヘ、其ハ余モホト「弱」果テ
ルナ。彼ハ是レ大平手ニテ足トサニ許
リ争フ海ニカアザク余ハ曰ク「余ハ今
視大ニヤケ飲ミテ極メ沈ム混々人
事ヲ忘レテ然ル後止マシト足果然ッ
余ハ平田ニ赴ケル主婦不社ナリ即ハヤ
直ヤ引キカシテ三歳ニ至酒ヲ飲
ム箱ハサシ、豆腐、インゲン等アリ
ラズ強ハ *like* 海ニテ余ト中山ト
大ニ新ウマ攻撃ス却テ却テ也ナ
然レニ雖モ從百出却テ却テ銀時計
ヲ胸ヘ挂クト散ニタルヲ見テ、畢
ルモアツツカハバ銀丸トハツヌル、
ト云ヒシガ薩ヲテ十時ニ一同歸
ルアトハ大風止ニタル後ハ然ル見

此の浮屠のグツシの金多ノ
高なる感あり日記のソナ
ナ由ある

二十五日(月)

例はれ、日暮り、今昼ハ、此等ノ大
風ナリニモカ、ワラス、日暮、タリ俄然ト
シ急雨、降、来、タハカ、如ク降、来、リ
見ハ、夜席ヘ行カン、主、張、余、ハ、決
然、何ヘ行カ、如ク、張、之、由、ニ、十、四、孝、
固、カン、主、張、大、ニ、争、ヒ、ガ、ジ、ヤ、ン、セ、
決、然、取、ル、余、員、タリ、ハ、時、或、兩、人、
兩、人、犯、テ、荒、竹、ヘ、行、カ、ン、家、ヲ、出、コ、カ
雨、斜、ノ、ハ、衣、ヲ、濡、カ、ス、ソ、冷、タ、
堪、ヘ、難、シ、即、ハ、夜、席、行、テ、中、止、シ、
荒、竹、何、一、ナ、料、理、店、ニ、入、リ、酒、ヲ、飲、
料、理、ヲ、食、ヒ、訖、テ、返、リ、十、時、ニ、至、
家、ニ、リ、テ、余、ハ、一、篇、原、稿、ヲ、草、シ、十、時、
夜、終、リ、今、カ、サ、シ、テ、何、モ、工、事、ナ、シ、
リ、今、夜、ハ、三、ツ、愉、快、ニ、夢、ヲ、見、リ、
見、ト、田、中、ノ、周、施、ケ、医、科、大、学、倉、庫、ヲ
見、リ、諸、物、ノ、動、物、ノ、解、剖、一、々、好、ム
ニ、皇、ア、ス、畸、形、不、足、者、ノ、標、本、アリ、生、殖
器、諸、病、ノ、標、本、アリ、実、ハ、三、ツ、一、時、ノ、夢、
セ、ル、事、ニ、夢、ハ、余、ハ、一、方、嬢、ガ、下、婦
一、名、僕、一、名、ヲ、持、テ、話、向、シ、タル、ツ、ケル

ソノ嬢ハ余家ニ深キ縁アル人ニハ丸違ナキモ
其詳細ヲ知ラズ只ソノ客員秀義ナルハ
碇ヲ入リタリ眉ホツトシテ品ヨク眼ハ黒ミガテ
シテキツトシテ愛々焉アリ口元ニ云ヒ頬ペタ
ノ肉ツキ一身ノ肉ツキ恰好天晴レノ美人
ノ操花ナリ美人ハ何カ辨スルツアリアツハ
妾カ一言一句ヨクウレ勘考ナレ後日返リ
ヲ下サレカニ云ヒアツテリヨリ去レリソノ客員ハ
余ノ眼中常ニ映テ去レテ然ハザルナリ
抑エ夢ハ余ハニミノ親友ト摸演ハス南ノ
海岸ヲ漫遊シアル小山ノ上ニ登リニ武
死海、九折海一昨ノ中ニ集マリ逢カニ
白雲皓々タル蜀岳ノ山岬然タルヲタリ
リノ愉快云フベカラズ何レモ吉夢ト
判定ス

二十六日(火)

例、如ク七時迄直ヤ芝山内へ赴キ
テ寫生ニ從フス今日ハ別ニ別嬪モ来ラ
ス冷カシ連モ来ラス無難ニ四時迄キ
マテ勉強セリ夫レヨリ山下賣れト云
テ帰途ニ就キ碇ニ湯島ノ西洋
料理店ニ入リテ夕食ヲ食ヒ山崎ヲ
訪フニ不在ナリ即ハヤ上野公園ヲ
漫歩シ碇リニ一今余ノ寓ニ集マリ
茶菓ヲ供ス批談ニ全ク我大夫ノ
一件ハコトイハルモ其丈迄頃口出
テ我ヲ不平ナル由ニテ五日ヨリ山川亭
へ通ヒテ後公ノ我大ノ困キヲ減多
ク感心ニ大ニ之ヲ研究セシテ余ノ門下
ニ来タルナリ余彼ノ為ニ我大ヲ苛我スル
ヲ抑メテ精ニ十時ナリヨリ山下賣れト
云テ出テ山下ハノ歸路ニ余ト賣れトハ
上野公園内ヲ漫歩シ電氣大燈下ニ
テモ挨拶ナリ完談セリ如クハ學理上
ノ説ニ依リ人物ノ造評ナリガハハ
河合ト氣志光合ハザルヲ愛中出セリ
柳等兩人ハ伊格ニ氣カ合ハザルヤハ

余知ラサレモ 角一交爭論ヒシヲモ
リエ来河合ハ性短氣ヲ要リ易キ人ナリ
ト又曰シ余ト山下トハ大ニ相スル
思フト 伊好^{ハル}ト云ヘバ 余貞亮^{ハル}ク見ル
ト、送家の意匠ノ似タルヲ、也……ト
云ヘ 彼又余ヲ評シテ老成人ニ見ユル
ト云ヘリ河合モ嘗テ成老^{ハル}ト見ユルト
云ヘテ見ルハ余或ルハ老成人ニ
見ユラン乎。角余ハ同級生即チ
他ノ人ニ對シテハ未ダ嘗テ一歩ヲ履
テス直ル、然ルハ余コリーオ長ス
最モ而モ其言リ已テ余コリ長スル
ナキガ如シ 彼ハ又己ノ一身ノ境
及ヒ心事ヲ預^{ハル}テ極メテ詳ナリ余ハ直
ルニ評シテ觀察家ト云ヒテハモ自ラ信セ
リ實ニ彼ハ一代ノ觀察家ナリ沈黙ニ
テ周密ナル点ニ至リテハ余遠ク及
ハズ無^{ハル}觀察ナル点ニ至リテハ余山下ニ及
ズ 言語ノ巧妙ナル点ニ至リテハ余遠ク
河合ニ及ハズ然レモ余ハ余ノ特性
フルアテ 他人ニ及ス之ヲ得ザル
モノラン乎。カト上野ヲ去リニ浦

シテビースク化スル真の微辭に余モ
微辭に十一時家にリヨレバ足ハ今日
夜席へ行キタリテ正一ノ手品ナドヲ
物語リス余カ寝ニ就キタルハ一時
頃ナリシ

今夜モ三ツ四ツノ夢ヲ見タリシカダ
ナ忘却セリソノ中一ツハコノ日記ニ関
係セルヲテ日記ノ中ニ余カ画キタル
物ヘノナキ奇ルヤバハ画ガ入り居ルノ
夢ナリケリ去ハノ程分ラス

二十七日 (PK)

例ハ通リハ時を授四時ヨセ
沐浴ニテ夕食ヲ授イモナホ日針
ナラズサテ(日ハ長クナリ)
ウシク成腹ニラベリナシ日全ク暮
ルヒテヨリ有る多人名簿ヲ要スルニ
小林ヲ訪ヒ次ヲ告グリヨクテテ務ヲ
返ルヘー時ヲまニシテ再ヒ家ヲ出テ
一宇佐義氏ヲ訪ヒテ空ヲミナシ
ヨリ浴ヲ購ヒニモナク通リヲ慢
歩スルニ浴ヲ受ナシ去リテ勤エ場
ニ入リテ冷カシナドレ又づラ(ト切
通シ方ヨリ親同何ヲグルト同クナリ
夕食ハト思ヒシカヨウヤノ思ヒ止マ
リ家ニリヨクシキハ十時半ニ至テトセリ
会ハル朝早ク津草ハパノラマニ行ッ
故所ニツケテ早々寝テトナリ
ト十一時ナリ。*

二日 寄籠五十六町

二十ノ八日(木)

午前六時迄は氣急車ヲ飛ビテ浅草、パ
ラ鏡に赴ッ學生等追ヒ来集ヒ共ニパ
マヲ見ル女ヲフノ画ヲ見バソノ大サ
最第人ノ好ケノ一過キス然レモ中央、
高サヨリ之ヲ望ムバー面ノ偉大男児ハ
モ通第人ノ大ニ見ユルナリ、グランド「將軍」
女キハ就テ之ヲ見バツノ式ケ一尺ニ
モ交ケガルナリ次テパノラマノ屋上ニ登ル
旗竿ノ次上マテ平地ヨリ二十間アリト云フ
次テ學友等ト共ニ公園ヲ散歩シ十二階
ヘ登リ四ツノ眺セシテ極メテ愉快ナリ
今日ハ葛岳、白坂ノヲ登山ヲ欠ケルモ日光
浅キ等ヲ欠ケルハ遺憾、玉ヲナリ
余概然トシテ歎ケテ日クオモ度ハ
是モ僅カニコノ一区ハ彼ノ士民ノ
住居ヲ欠レバ僅カニ掌大ノ地ヲ画シテ永
住ノ地トナシテソノ中ニ生息ス上ヨリ之ヲ
見下セバ實ニ惆悵ベキナリト歎ケ共ニ賛
成ス山下望ミ鏡ヲカテ下界ヲ見下ス
歴々辨スベシ少女等、戯シ遊フモノ
家婦ノ孩々衣食ヲ供スルモノ一費為一

行服中、アソリ而シテ彼等、從マニ、私事
密行、爲ニ嘗テ余等、天上ヨリ之ヲ窺フ
タリ、サルナリ、堪、下リテ他ノ客友ト別レ
山下、河合ト余ト、最、術、パンヲマツ、一、見ス
男、眞、ステレオスコフ、ニテ、兎セル、ノ、大、サ
ニ、最、術、パンヲマツ、餘、五、錢、ヲ、賣ル、ハ、カ
ノ、大、胆、ナリ、ト、云フ、ベシ、ナ、ホ、園、中、ヲ、漫、ウ
シ、テ、午、前、十一、時、ヲ、交ヘ、リ、ヨル、正、午
ヲ、過、タル、ヒ、至、余、等、ハ、歸リ、昼、飯、ヲ、喫、ス、ル
ノ、宿、房、發、シ、テ、睡、眠、ヲ、催、フ、ス、テ、頻リ、ナリ
余、沈、々、又、昏、々、夢、ノ、如ク、現、ル、如ク、
幻、ノ、如ク。サ、ル、カ、如ク、寐、ル、カ、如ク、
怪、々、奇、々、妖、々、變、々、異、妙、ヲ、不、測、リ、
魔、夢、ヲ、欠、ル、ヲ、其、後、數、十、余、ガ、全、
醒、ノ、タル、ヒ、至、午、後、三、時、ヲ、過、キ、タル、ガ、
頭、重シ、眼、ク、ラ、ク、其、不、愉快、ナル、ヲ、云フ
ベ、カ、ラ、ズ、茫、然、早、然、晨、食、夕、食、既、
リ、雨、ヲ、犯、シ、家、ヲ、出、テ、伊、保、町、ニ、赴、キ
泥、字、ヲ、買、セ、テ、家、リ、ヨリ、日、暮、ヲ、待、テ、
提、ヘ、テ、特、野、方、ヘ、赴、ク、半、夜、連、此、
名、素、リ、テ、就、寝、途、中、ヲ、手、傳、フ、迅、速、
又、迅、速、瞬、間、ニ、テ、醒、ル、余、ハ、殊、

田

里二

務の輩にテ家にリヨリヤ林にノ儀に
 3畝ケル画ニ從テスルニ神心更ニ
 進ニテ趾履虚ニ來テ來リ驚ツテ急ナ
 リ余則ハ4筆ヲ投ニテ寢ニ就ケルハ
 十一時ニナリ余ハ今日ノ如ク
 身体ノ工合悪キ日ヲ見ズ多ク不
 祥ゾト喝。

コ旧歩路 百三十九町

子取路	3
浅草マテ	28
浅草マテ	10
上野マテ	17
号橋マテ	10
加代	5
浅草町能後	50
神野へ能後	16

三里三十一町

36 | 139 | 3
 108
 31

二十九日 (金)

例ノ通り五時帰宅沐浴病戒ニテ夕
飲ス喫ス足帰り来ル即ハ今夜夜席
ヘ行ケルヲ防ス来ル月曜日試験
ニモカワラズ斯ク過グハユル余カ如キ
ニテ是ノ余ヲ死地ニ陷シテ然ル後治
キニ為ナリ且ツハ余ノ頭ニ是レニイオシ
ルナリナリナリナリナリナリナリナリ
ニ余見ト荒井ヘ行キ正一ノ手宛ニ欠ル
義大ニト達シテマコトノ風味ナリ只ターカ
笑フノミナリナリ是ト云セテ出テ平野
ニ飲ム余ハ三日ヲ飲マサルバ心ニ地味
ナリステ今日ハ大ニ愉快ナリ昨日ノ不快
モ酒ナキニ為ナリナリナリナリナリ
シ車ヲ飛シテ家に帰り直シニ暮シテ
午後十二時止

二日行程 三十七町ナリ

三十日(土)

早朝ナ林氏務アリ来ル余子ホシ目
カスリテ画キタフ時ニ五時ナリ小林ハ昨
夜徹夜ニシテ精沛不寐ト云フ何サマ
身作ノ危ルモハハ不及ナリ末ニ
ウトト再ヒ寝タルヲ夢ハ近來ノ殆
快絶義ナシ瑞夢ナリトテ例エハ
余ハアノ所ノ山中ヲ行キニ道至テ山氣惡
ナリ時ニ二人ノ小兒アリ長ハ十許リ幼ハ
六ツ許リ楊ヒ、黄ハ式ノ衣ヲ着シ容良秀美
ナルガ笑ニ痛ク歩キタリ余欠リ急ニ西
人ヲ一友ニ負ハントスモ不決一友ニ左右ニ
抱カントスモ不決止ムナリ弱クハ足ヲ負ト
ナホ壯健ナル弟ノ手ヲ持テ坂ヲ下ルニ大雨
降リキリ来ヌ兄ノ傘ヲ以テ三人ヲ蔽ヘドモ
弟ハ半身濡レ踏ぬレ余ハ正午ニナリテ食時
ニ後レテ急ニ大ニ急グ弟ハ余ニ袂ニスガリ
付キ泣キ、後ニバセニ走ルヲサヤイト哀ナリ
宿所姓名ヲ問フハ神田多町ノ酒田ト
云フ家ナリト云フヤガテ万世村田ニ至リ
雨止一店ニタヌ入レ余ハ到店ニ入リ欠ハ
ニ更ニ氏外ニ名ノ友アリ余欠テ大ニ喜ンテ曰

ソ余手品師ノ儼ヒタリ君表に來ルハ藝
姑クアスベカシモノヲト四人飲食ス 體ヲ手
品始マル向フ一面高座アツテ三人ノ
義女端坐ニ終ケ手品ヲ行フ其外動
物マ子ノ藝アリ一ハテ臆セズ殊ニ面白
カリハ一児ヲ蝶々粉ニ一人ヲ猫ニ
粉ニ猫ガセ業ニ狂フ踊ル跳ル輕
々妙々翻 翻トミテ輕ニ余等拍手
喝采シ興ス終リニ寫生畫ノ一版アリ
連珠勝勝タリ山ノ34一氏ヲ訪ヒ金
七金ヲ受取リ(履服)及ニミノ品ヲ買
ヒ四金ヲ餘ス余之ヲ懷ニシテ再ヒ去テ
大學ニ赴カントシ彼ノ西見ヲ思ヒ出シ
人ノ向ヘドモ矢ル人ナシ彷徨シテ遂ニ
八時ノ曉鐘ヲ聞キ夢醒ル今日ハ天氣
快晴和氣洋洋々實ニ近頃ニナキヨキ
身モヤリましニ昨日ノ飲食ト今曉ノ瑞
夢トヲ兼テ心神頗ル爽快ナリ八時オ
學校正午ヲ食後休息ニ知張ニ
トツカハルヲセザル氏事訪事街ノ上
有テナルヲ訪ラナシタルグ午は
三時オ歸去ル

走ッ余ハ勉メトリカリ夕刻になつ
夕食、室内諸君同むらッ出頭シ命
スル事ヲ得心中ホカニ安カラス直ヤ
小林ヲ誘フテ出頭シ茶點スルニ休用
解ス乃ハヤ直ヤニ服ヲ着テ方ツニ在ナ
リ固テ替シテ書ヲ読ムヲ残シ置キ直ヤ
ニ固メテ方ツニ在ナリ即ハヤ春木町ノ教
舎ニ赴キシス、……氏、藝術演説ヲ
開キ、醫術ヲ切實ニテ見セーカ精シク説
明セシ天晴ナガウ通譯者、無學ニテ誤
解化スハナシテ習キタリ且ツ聴衆、中ニ
執事ガヤクトナシ或ハアベシ或ハ口笛ヲ
吹ク等、不埒ナラフ外國人、大ニ怒リタルベシ
中條、津島等、友人來リ居リ、夕食
津島氏、當ニ往ヒ居ナリ、其レコ
室ニ入り、此ノ會ヲ互ニ心中ヲ語ル所
ハ休メ、一身ノ辱罵ヲ受メテ而テ平ッ
余ニ彼カ忍耐ホ知ラズニ感心セリ
シニ愈々出テ余ハ休メ、ビール瓶ヲ持
ヒ坐シ飲ミ、一々選歌ヲ唱テ平ス

(葛西) コレハ近頃、大家ナリ其ノ
近來オー送家ナラン書翰モ、

- 家地モヨリ且つ藝匠ヨシ
 (横河) 中々、実地家イテ精細ニ行キ届
 キ且つ此等ニヨリミラベル人ナリ
 (宗) 表情的、家ヲ造ル人ナリソノ代リ
 美術ハダシナリ、造画ハ精細トス
 (同本) 年表ケレモ此等ノオ子ニシテ実地
 ニヨシ美術ハダシナリ
 (石井) 藝匠ニ属シ周到、微塵ナク、美術
 実地共ニヨシ人物、高雅ナル人
 ニ割セラレ、大ニ女難ナリ
 (小野) オ子ナレバ、オ子出サス、着安、温泉
 ニシテ、君子ノ風アリ、清水、満ニカ、養
 子ナリコノ人ハ一生幸福ニ居ルベシ
 (田島) 造ナテ研究家ナリ、然レモ幸福
 ハ得難カラシ
 (犬) 藝匠ニシテ、造、造、造、世オ甚シ
 シアリ、一奇人ナリ
 (山崎) 一ノ人物ニシテヨク、実地ニ精シ
 且つ研究家ナリ、果シ剛毅ニシテ
 製図ニ神妙ヲ得タリ
 (神谷) 別に、長テナシ、只タ忍耐ト一身
 ヲ矢ルルノ点アルナリ

(浪水) 拙世ノ歡學家ニシテ素匠巧
ニ用意周到尽サバハ所凡人物ト
シテハ殆ク遠大ノ志也

(山下) 洒落ニシテ物イ悦喜セヌナ粗
果ナリト居モ愉快ナル男ナリ

(河合) 拙ナテ丁寧ナレモ意匠宜シカラズ
人物ヤイ芳華ナルヲ愛スベシ

(長野) 温厚ニシテ勤勉意匠ヨシ

(塚本) 洗滌ニシテ勤勉意匠到リテ華
未ダシ

(大倉) 柔和ニシテハンキナリ意匠宜シ
ラス

(三橋) 柔弱ニシテボシナリ意匠悪シ

(兩角) 平々且ツ凡々意匠宜シカラズ
人物トシテ芳華ナリ

(鶴田) ワルクラ愛マ化ス人ナリ

余ハ自ラヲ平セサルベシ

家ニ歸リテ勉メ知シ十一時迄ニ至ル

兄余ニ酒ヲ饌ル余モ之ヲ飲テ日記

ヲツケ十二時迄寢ニ就ケリ

コノ日行路 四十三町

三十一日(日)

今晩夢ハタシカハ元陽セス然レモ能
リヨキ夢ニハカシカハ元陽セス然レモ能
レタル夢ノ種類ナリト覺ユセ時起キテ
試験ノ下ニシテバナスールハ不眠ナリ
ニ至リテ休息ス那珂勉先生来訪ス
即ハテ就寝ス始メ大酒盛リ張り主
客酔フ彼ノ女房女来リ田中苗代氏
嫁スルハ内約整ヒタリト彼ヲ説セリ目出
多シ目出多シ無理テ田中ハ那珂家ニ
通学スル思ヒニ倦コシ先生的ニ氣ガ
アリナリ。三時那珂氏歸ル余ハ茶ヲ喫
シ沐浴シ夕飯ヲ食ヒテ酔ヲ全ク消シ
サレテ知テ後服ヲ氏ヲ訪ヒテ明朝
ノ内務省ナリ番頭ヲ最速ニ受ケテリ
彼ニサヘ任セバ大丈夫ト安心ニ夫
ヨリ山下ヲ訪フテ試験シテナリ
大ニ研究スル所アリ服部廣先生来リ
人ニテ言ハル所ナリ出カケル所ナリ
少シテ家ニ歸レバ十時サレテ過キタリ
一休シテ後日ヲシテ再ヒ勉メ
トリカワカリ——コナフテ試験ス

い　　も　　＊
 日　　の　　申　　の

い　　い　　星
 下　　の　　
 成　　の　　

屋ノ掃ト云フハト大胆ナル掃ナレモ
 際出来ルンダカラ可笑シヤ、コレモ
 百点取ロウト云フ量見ハ凄イダロウ
 (今朝由緒あり山にまゐる)
 十時大ニ退キモリヨリ来リタル余ハ
 三ノ時ニ終リテ出カス所ニ下ル
 野紀ノ富ツ張リ大ニ法螺ノ戦ハ中々
 愉快シ六会ノ酒ニ兩人ハ星ノ微睡ニ
 テ夢ヨリ来リ余ハソナナ無事ニ寤ル
 モリ時ニ十二時ナリ夢ハ又カ
 久カク来ラズ

与月一日(月)

朝試験アリシ事、近頃大に力ナク
 試験ハ、此頃暮ル七時迄キリ蓋シ
 二時ハ、四時半ヨリ、明月ルキモノナル
 ベン午時試験ハ、お蔭デラカ、来ヨリ
 四時家ヨリ大に休息シ、各種ノ就画
 ナ画キテル身ヲ養フ(今朝番付付来ニ
 金銀ノ就画、通達ノ、お蔭ス、正午暇
 セヨリ、内務省一申、幸ビ是アリ、安心セリ)
 日暮ヨリ、是ト共ニ、午ノ、若キハ、行ク
 飲本、書見アル友ト共ニ、後ヨリ来ニ)

東王	日光	58
孝代王	甚	60
東王	荒原	76
小原	鏡ヶ	61
小原	丸田	100.

金、色、耳ナシテ、随々、fineトナ
 ン、知ルル事ナリ、金、計、算、ニ
 口ニ、是、通、中、路、甘、ト、東、王、ノ、魚、殊
 ニ、勢、キ、ハ、リ、タ、リ、コ、シ、ノ、團、外、儘、之、助、ナ
 ハ、連、モ、依、リ、ハ、リ、ヨ、リ、付、ケ、又、ナ、ッ、ア、ナ、面、白
 ナ、ナ、愉快、コ、ノ、間、キ、展、ル、世、事、ハ、ナ、シ、

考へ又此コトモナキ保養トナリリト
ノ後更ニ出直スツバセハ足ト脱トセ
ニ大ニ飲ニ大ニ食ト云ニリヨクテ
クナニ時ナリ

七月二日(火)

早朝ヨリ芝山内へ赴き昼食をとり
今日出来上りたり余は大に喜び四時切
上りむ時高きヨル夕食ノ後 兄ト共
田中ヲ訪フ 中山来リテアリ 田中ノ
子也、後ハ田中ガ御孫、田中君收事ト
致知、殆成リタ 夫レハズニ遠回
ニ冷カシドス中々興アリ 酒肴一酌
アリ 余等ハ之ヲ以テ飲食シテ一時
過キ中山ト共ニ知屋ニ就キ十二時
迄に就キ 中山ガ孫ト毎々田中ヲ
訪フテ往來スルハ 亦カベキモノ
ナリ アル人ヨリ驚カレン

三日(水)

早朝御供来り直ぐに帰る。校四
の時帰宅。コノ日正午ヨリ俄然熱發
シ頭痛烈シクシテ堪へ難シコレ余持
病ナル喉頭カタルノ突然發生セシニ由ルヲ
ケリ余ハヤラヤ臥床ニムグリヒミテ寢ニ
死キタルカ熱激シクシテ食モ喉に入ラヌ
諸神醫詢トシテ翌日マデ各種屢夢
ヲ見ツケタリ

四日(木)

今日モ不快ナル日ト思ハラス諸般銀
水ヲ以テ喉ヲ燻キ空シ床ニ上リテ
食ヲ録タリ候ニ入ラスハント申
スルテ氣力ヲ失ハルニ至リ。新嘗ナリ。腹ニ
積ルヲ覺セタリ。矢張リ此ハ病魔
夢ニ覺ルハツ、翌朝ニ至ル

五日(金)

今日、中、快方ナリモ、顔色大ニ喜ヘ
頭痛ニ足定マラス、幸ツテ登校シ、昔
同リ正午飯ヲ食フテ、セシエ、又
増シ、四時止マテ、在校セリ、归校、
後夕食ス、小林、伊藤氏来リ、次テ
中山氏来リ、来ニ、モナク、归ル、金ハ
病氣係表、為メ、又ト、病中ヘ赴キタリ

東王 野宮お 93

ナ豫 寺子花 50

ナ路 中持姫 100

中持姫ハ、無メ、難易ニテ、カモ、ワカ
モ、上筆ナリ、ヲ、矢リ、且、ツ、カ、路、巧、何
絶世ト云フベキ(女中ニテ)ヲ、矢リ、又ト
ナリ、評ニ、合ヒ、归、金、平、野、花、ニテ
興、樂、シ、食、食、シ、十二時、半、リ、
此、シテ、終、リ、タ

六日(土)

正午御免大に勉強サカランマスに
田中曲は事務ス田中ハマテを流ノ得バド
おカマサハスビルノ欲ミ與ニカル未共
ニ山園ヲ訪フ不花ナリマシヨリ園子ニ入
ルカレテ途中赤田多ク訪フ多田漁山ノ
ト号スヘボカテ受テ妻小橋麗ニテ三オ
ノカ受ツツノ他母一人アリ至テ氣樂ナリ
頻ニテ面黄ニリバト酒トニアリツキシバラク
樽強シリ酒屋余ノ宿ニ至ヒ今ニ共ニ流
流ニ共ニ飯食ニヤガテ家ニ出テ山園ヲ
訪フ不花ナリ中山ノ訪ヘドモ不花ナリ即
ハタ余ハ田中ノ女ニ至リテ別座ニ時
中山事務スビルノ馳走ナリ十一時迄
家ニ归ル時呼テ日ハ命事モサマシ
リテ更ニハ談話ナリ併ニコノ頃命事
ノ從車ハダシテ豊ヲサキタルト多クテ
頭トナルモノアタ余モ不愛多ク味ナリ
グ出ルル様ニナレハ喜ト云フヘニ今
更ハ中計ニ入テ談話ナリニバ辰ノ
ニカキタルヲ強テ中ノ可笑カ
リシ風ナリ

〇〇日ク酒ヲ以テ會ニ集フ

山岡曰ク何ゾ如キニハ 10035ヘザル

七日 (日)

極上快晴好天氣

七時起床出ツ急ニ角ト急ク酒ニノカッ
餘金ナシ十時江戸日京ヲ往テス
テ例ノ如ク快痛ニシ面白キヲ喜シ正
午ドザウ鍋ヲツキテ酒ヲ飲ミ余ハ今日
代ナリトテ出席スルニハナシトテ
ヲ呼ビ居ニテ共ニ酒席ヲナス酒席ナ
シ人衆長シテ家ヲ出テ車ヲ附シテ萬世橋
畔ノ席亭ヘ上リコニ清釋ヲ同リ余ニ
シハシテナリガ客ニナリトテ職人ノナリ

真山 65

吉洲 60

英品 80

伯知 70

如燕 85

お大ト4カヒテ興ナケレハ再夜半ニ
膳リ五時同家ヲ去リ馬車ニテ上野公
園ヘ赴キ目晴シノ台ヘ歸カテ四時ハ
方々見マフニ行基ノ人ヲ厩場ニテ見シ
ル余等ノ當リ通ナリ厩場ニテ見セリトモノ
路ナリトテ美人ト名バキモノナリ

山岡曰、コノ段路思ふに人いふを思ふベキ
悪文ナリ伊東氏好シテ斯レ文ヲ撥ル亦一
奇漢ナル哉

又人トシテ伸キト名クベキモノナレト嗚呼洞
鑿ニ察シバ世間又人無キ哉人無キ哉 傷
ミ余ヲ来テ錢ヲ乞フヨリ今夜白ハシテナレ
ト江原トボケテ曰ク余モ今夜白ハシテナレ
即ハヤ直ニ云フモノナリト乞フ余ニテ去ル
一ト奇ヲ告ガリ 休息スルヲ一トする余
夢成ノ義者即チ夢子トシテ大ニ夢子代
ヲ養ハカメナリ江原即チ之ヲ却下シテ曰ク
余等ハ夢子ヲ好マス、夢子ヲ出セル義
者ナリリ的ガ外ナリコレニ小奇流ナリ
已ニシテ江原問フテ曰ク僕等ナト小女
先テ曰ク〇〇錢、夢代ハ思ハレテ更
シテ江原ツブキテ曰ク誰カコノ夢代ヲ
辨フモノゾト〇〇錢ヲ持テ去ルナリ
又テ此等小女疾走ト来テ〇〇錢ヲ渡ナリ
〇△錢ナリ夢代ハ思ハレテ更シテ江
原即チ口錢ヲ与ヘテ〇△錢ニ是ラシ
ム小女又曰ク夢代ハ……江原曰
ク思ハレナキヲ如何ナリト行ケト又ナ
リ此等小女疾走ト来テ告テ曰ク
公ノ先キニ与フハテ〇〇錢イラズシ
コレ僅ニ◇錢ニ乞フナリ不モ僕ハ

山岡評シテ曰ク一及来テ已ニ其ノ婢女ノ名ヲ知ル
有等ノ特ゾヤ有等ノ多情ゾヤ

山岡曰ク筆端宛然トシテ美人ヲ現出ス妙文矣

山岡曰ク大衆ヲ驚キナリ

ト江原眼ヲ怒ラシ叱声ナリテ曰ク咄
汝眼ヲ開テヨイ見ヨ、汝有等ノ狡鼠
姝ゾヤト小姝有テ此ヲ去レコシニ小
新張ナリ天王寺ヨリ園子セウサレテ
ミヤブツハ花ニ入レコノ地風景佳地
連岡傾ル蹴蹴アルヲ見テ余アリ余等
酒ヲ命シテラダシテ余等ノ家ニ下輝路名
曰クワ王、曰クワ我、曰ク我、曰ク我
而シテ余ノは安テ仰ツモ、尤モ義ニ
テ愛好アリ江原即ハテ歸テ余ニ向
ケテ之ヲ挑ム、其戰事回、其安間々
袂ヲ口ニ矯焉トシテ笑フ、風景愛ス
ベシ日全ク暮シテ同族ヲ去リ振書
向フコノ戰場今一ノ残花ヲ留メガ
ルヲ欠心ニリカ足ラズ江原走ッ一
小巷ニ入り余之以テ目ヲ次
左右野軒ニ矢場ナリ伏兵一
各ニ両側ニアラフル急ニ足鐘江原ヲ
擁テ動サズ(朗君、乞フマツ来)
(朗君乞フマツ来)喧噪沸騰ス江
原も急ギシテ是ル開口ニ至リテ
余モ三名ノ動物ノ擁抱スルヲナリ

八日(月)

例に通り五時帰宅沐浴して4時30分
次に夕食を摂り(四時脱衣)山田33番へ
リテ尋ねしに「カツイ郎が中へ還らなう新
酉するトス日倉、善い、後家に出テ、
先づ岡村33番ヲ彼モ試探するにテ大驚ッ、
仲々又事上ノコト 此件ヲ知シアツ酒ヲ飲
ナドモ出テ彼ハ暗に余ヲ疎いモ此
レ余ハ走ヤ前ト云フ内彼ハ「君ハ決して
人ト疎遠セルノ癖有ルハ知れり……然し
……ドモ君ニ教服スルツケガアルナ……」
他日待テ伏ツテモスベシ……」ナドト云ヘリ
何、此ダカ余ハ少しモムラズ有ね〜致
服サレ、点ガハカ! 彼モマンガヲ親友に回テ
訶決モ云フマイ……○岡村33番ニ買物ヲ岡
ヘ大歩寄リタリ 今日ハ、善師ノ豫日ヲ中
仰通りハ往來親戚立親ノ邸地+これ時
半神氣ヲ示フ不花ヲ氣に抱リシランニ
ラベテ善い哉、ト時定ナリ※

九日(火)

七時起き芝山内にてキ生スコいせ代橋
筆懶て書、中へい至テ静ナリ至享静ニ
過クル位ナリ但し西洋人、貴顕、令嬢等
上等、人々時々拝見し来ル。正午、飯
會に赤太坂、乃前り来來死ヲ流テ案じり
四時迄キ去リ余ハ中條ヲ訪テ厚給フモレ
クシテ流テス中條ハ笑日辰野氏ヲ訪ヒテ流テ
セシ際辰野氏ハ彼ニ向ヒ、近頃ハ學生ニ色
々難題ヲ云ヒカテ困死スレリ、伊東ト云フ男
アルガ自死面ヲヨル意近モ巧ナリ中々望ム
人物ナリ云々ト云ヒシゾ中條ハ余ニ訶リテ
屋裏ヲ云ヒシハアラザンベシ然レ辰野カ
余ヲ養メ過キルは事ナハ可笑シ彼ハ亦余ヲ
評シテ彼ハ文學ヲ能クスル人ナリト云ヒタリモ怪
シ次チナリ又角余ハ多ク望ム人物
ト見ルナリナリ自ラ案じ自ラ食スルナリナリ
終テ舊莖甲斐モアルト云フモノナリ家ノ内
夕會ヲ喫メキ林原死入リマリー一日ノ
有る所ノ果見テ流シ中々ヨシ行キタル由
ナルカ七時迄来ル余ハ又々シテベニ取ッ
カリテ余余ナシハ八時迄山下、直ルオキ

連日來訪ス事多ク供テ新説ヲナス兩人
ハ余ノ所ニ著スル者スルヲ大ニ美シ
ぬニ余ハ智ヲ頂テ得ハ大ニ人ニ
勝リ大ニ利アリ余ハドコマデモ行ハス後立
テ勝リ中原ヲ争ハシ氣ハナリナト望
ガハ人物タレ一エツン……。九時事三人
家ヲ出テ本邸ヲ訪ス十時頃山下去リ
直ニテ子ヲ飲ム余頗ヨリ月同マデラ子
ヲアビルノ一奇蹟アリ十時過キ家リヨリ
テ又バシラベ十一時後ニ到リヤリ

十日(水)

川時登校血時り唯 217 例、如にコ
 日月や紅葉山久義此ぬじ通淡セに
 其記る豊美山嶺然預譚つテロ氏トの
 氏ト、未妻恋像スレハ神心轉々妙ナリ
 比、汝ハ紅葉ニ弄セラル、奴ハアザルレ!
 比、ロ。ア一小時ハアマツ多ク愛マシ、文字
 果然、436ト涌キ出テ、余ヲ驚フテ去リ。
 沐浴シテ夕飯ヲ忍ム。ヌット入リ来ルハ
 山岡ナリテ凡ツ一時的録余ハドマ
 山岡トハう花ナキ共シム。兩人ダンス
 2テニラシヒ、甚ク殺風景ナリ山岡歸ル
 直ニ宿、童子潔入リ来リ凡琴ヲ弄シ猫
 児ヲ弄ス猫児ト童見トウカ、余ハ膝ヲ
 團シテ余余ナク戯フル無心ノ態、愛マ
 ヘシ猫ト童ト共ニ嬌々焉余ハ
 シバツク筆ヲ投シテ兩動物、頭ヲ
 ダサスナドセルモ、妙ナリヤガテ猫ト見
 トまり山岡亦知リ次テ来見、ま
 以テ子供、突然兩人事ヲ久シブリナ
 ルヲスナドニ喜ンテテテシテシテ酒
 スレト命ステ後任(與アリテテ脱カ

予は28歳へ余ハ13供張スル四歳多
彼ヲ見下スノ風アリ云々微教マ
彼ヲ律義一回ナル心肝ヲ費シテ供性
敏速キ両眼涕ヲ漂ハテ告戦ス彼ハ
ヘ余ニ勝タ得ルモ勝ツベキ理ニ非スト
思ヒ定メシテ戦ハレバシ彼ノ術ハ正々
堂々ニテ中々ヨシ惜哉余ト段違ヒナレ
バ余ニヨキ揺ユスル廻ケル切齒シテ口
惜シガクツ。ハハ畢リ今我端ナリ口術
ニシテ毎ヒ十二時過キ両腕をヘ余ノ
目見ツツ一ハ時度ニシテ

十一日(木)

例の如く授けられたりして、
室内で種々大に心地よく暮らす見
は、夜更けの頃、第ハ燈下で勉強に勤
し、その林派元は、果して空想一時石
る第ハ、此と原稿一件の、然し、
余も勉強なり、かうして、昨夜、猫屋敷
室内に走り、下へ、上へ、現へ、
書に戯れ、紙に狂つ、情書、愛スベシ
余と、遊ビテ、夢子、文藝スル、
童子猫、初巻、尋チ入リ、来リ、余、画
う、見テ、頻りに、書、余、彼、
画、手、し、ドス、
飛ビ、は、タリ、余、ハ、カ、コ、
夢子、ハ、カ、ラ、ズ、
書、
々、見、
待、
飲、
ア、
ル、
一、

夫も有サザルガめナルベク密貞相カワラス
愛ヲシクレモ毫モ悪キ所ナシ兄トハナツカ
シメテ居タルガ、行徳サンハ内庭
ヲデイラツヤリマス、私モ是レ伺ハナレ
バ満ニセンノデ内庭イマスガ……………、
内庭ヒエナリマシタラ、ドーゾ置シテウツヤッテ
下サマセ……………”余ト兄トハまじり身ト
ノ方向ニ就テ居タルガ。余ノ身ノ方向ハ
實ノ所余自ラ決メ置キル次第ダノデ。父
ハ是レ學問ヲウツテ博士ニナリ大学教授
ニデナルガ宜シイ何ヨリ名譽ニナリ勸メ。
平田ハ清見師カ又ハ余等ノ建シカ大工
事ヲナリツツ金ヲ儲ケルガ宜シイ何ヨリ
得業ニナリ勸メ。兄モ博士ニナリ賛成シ
親類トモ多クコシテ主張スルナリ。余ハ
拙シ當ハ辰野流ニ大学教授ニナリ博士
トナリ修ラカセグヲ勸メ度ク思ヒ居リ
余ノ家ニ就テハ大著作ナシテ後世ニ
残カンハ必ズ希望ナリ又美術裝飾ヲ
画事務所ヲ置キテ人民ノ福利ニ應ジ得
テ美術建築研究等ヲ美術建築學校
ヤラ無キニテ下シテ腕ヲ揮フ思フ

ナリ夫にい今ヨリ送家先と違ナリ信用ヲ
得子バナラヌト其旁シツアルモノナリ……
徳ヲ先覺ル鑒ニ入リテ思ハズ飲ミ過
テ兩人並ズル所ニ十二時止ナレヒテ
归途ニ向フ、伊東サンドーゾ又近イ
内ニ………ノ行徳サニドゾ宜シク……
ア、ナブノウチ坐リマス………ノ二十車ヲ
アテニスル婦一サレト違ヒナセアモ扶シテ
モモトハ一廉ノ立派ナ侍ノ娘、浮キ咲葉
ハサシナク妙ニ甘タルキ所作ニタデナイガ
無量ノ愛嬌ヲ眼中ニ含ム所ハ凄イモダ
ズリヨリテ schnell in die Klappe
vergeffen 3 抱シタルヲ伊東サ
ナリ知ラス、愉快、愉快、※

十二日(金)

早朝 15時 外陽 事ヲ知テ後ノ時ヲ
ツ余 和洋ノ眼ヲコソリナガラ 教ヘタリ 併
15時 後ノ事カ更ニ知テ後ノ時ヲ知メタリ
四時 午ナレドモ 事カガサナナ 思ハル
彼ハ 凡ソ事オニ更ニキリ人ニ 伝モ
3時 午後 平生ノ事カハ 何ハハ 思ハル
人ハ 天オ云モ、アリ 15時 後 此ハ 長シ中
天才ニ 是ハ 存一割ノ 事ハ 終 免シ
ソ 神念ナレ 然リト云 彼ハ 事カナナ 代リ
氣節ハ 見上ケル 程 立派ニ 實事 忠誠
剛毅 正直ト云フ 其 家 同ハ 彼ハ 中
送リトモト 思ハル 位、云フモ 遺傳
テ 父母ノ 教訓 更ニ 爲ナリ 余等 彼
トニ 年ヲ 同 居セシト アリハ 今 此
コ 此 終ニ 養成スル 業ニ ナラザリ
否 然ハ 全ク 反對ノ 決意ニ せシメタル
ナリ 余ハ 彼ニ 對シテ 事カ上ニ 大益
ヲ 与ヘタル 精神 上ニ 左ナリ、毫モ 与ヘザ
リナリ 何トナレバ 余ハ 主トシテ 彼ニ 飲食
17 起戦ノコト、ヘツズ 17ナリ 教ヘ
ズバナリ、鳴ル 事ハ 人ノ 教訓スル 所ニ

ハアザル手思フテ急ぎバサシ開ロス
ル点ナキレハス然レモ余ハナリ自ラ
得ルシテ言フス所アリコト知ルモハ
只余自今ノシラン事アリ。午後三時
半頃迄スレバモキ学校ニ同学生等シ
ル余ノ過飲責メ或ハ日君ノ莫オ他日
悉ハ酒場ニ多ク、笑メ謔メ實ニ惜ムレト
原素ヲ曰ク余ハ酒ヲ禁ミ難シ云レ共余
シテ酒飲ム時君ニ迎メ居キバ軍シ
タ等ノ莫保トナルベキ事ト衆共然リ
沐浴後夕飯喫シ月夜ヲ枕ニシテ休
息シ日暮ニ至ン余又ト出ダシ月夜ヲ
舞臺ニ行シ原素ヲ揆定シ次ヲ又ト其
地圖ヲ下ノ上野ヲ歩キ湯島ヘ登リ西
澤食ヲ食ハトスル山田ニ逢フテ果サ
ビハリスヲトメス山崎松花氏来リ余
シサ訓ヲ授ク余ハ未ダ酒飲リシハ
其後表界ヲ行キ又ト余ス

小澤 由良 四曲 55

小政 朝顔 97

一二ノ間ノ小政ノ妙技ハイモナガラ
深ク感服スル所ナリト時平野氏ハ

登リ酒肉の食ハツテ新大まづ毎に興
大に居中ズ毎ハ見ヨリ新大まづ好い甚
しキト見ユ余カモ属し酒+大モヨリミ味
ト節トヲ誦スルハ

朝元夜に記 第拾五	月廿四
廿四夜十地生ノ有	月廿四回
匡者舎の有	月十三四回
芝代萩 乃殿場	月十三四回
菅原 四ツ月	月十回
酒房ノ有	〃
日光丸 三切	〃
大切三切十有月	〃
中記出立ノ有	〃
川更乳 新大酒	〃
三十三万石	
野島村	
新大石 揚子ノ有	

此 七層川ノ有
此カ余カ家ハ大に淨ルノ例ヲク
見分之人共ニ甚シ新大ヲ好ム
何ナリ十二時申人カニテ家ニリカ
見ニ直ル 歳余ハ月三ツケテ度ニ

十五日(土)

午前 7時 此の反野(イノ) 論文を必
要ナル 整同に終るに心不出にナリテ
勉強ス 足に疲るハカキシモ余ハ無ナリ
ニ勉強シ大肌又ギにナリテ 終ニ 翌
日 午前 9時 2時ノ 鐘ニ 同テ 寢ニ 終
リ
午後 申時 猶 一 部 代 事 案 上 子 街
上ノ 街ニ Architectural 2 案 スニ
行ナリ 大ニ 驚キ 行ハセ 時 2
ニ 来リ 10 時 2 時 回リ 来リ

十四日(日)

九時起き直ぐに勉強ス正午の休憩
い休みの午後一時トリカ
四時より沐浴に奮発し夜に至る
余は就寝原稿ヲツヅサへ終りた
現存何へ送キカリ何④コセヤカ
萬世播エツヅクトリカを途中ニ(雨)
角ニテ Bier 3 リツカケテ多ク
快ク買ヒ家ニリテ再ビ勉強ス
17時ニ十二時ニ至リテ疲レ就キタリ
今夜余ハアー、ナレデモナク

十六日(火)

今日ハハザ西ノ山麓ヲ受ケタルカ午ハ
四時半ニ至リテ成テ出立ハ余ソ且ハ
ズ觀望力強キ真水ノ画ハモ信ニ近キ
此運筆ハ妙ハ只ハ余ニ及バズ共ニ八十
点ナランハ合ハ七十六点山下ニ七十点五
所モ適当ナクト思ハル 家ニリテ休
息後起テ強リカル 兄ハ余ニスツト酒
ヲ飲ハ余且ツ飲ニ且ツ食ニ且ツ字ニ
了ルニ丑ニツノ鐘ヲ聞テ寢ニ就リ

十七日(水)

例ノ通り五時半帰宅ニ休息ノ後勉強
ニツカレ中山貴亮氏来訪ス余ハコニ
座ニテ著書ニツカレリ中山氏大ニ助言ス
ル所アリ是ニ大ニplanヲ改善スルヲ得タリ
余ハ冷酒ヲノミテ著書ニテ論文ニ付
セリ中山氏キガタリヨル余ハ終ニ翌日
午前五時半寢ニ就ク

イ
ハ

十八日(木)

三時ヨリ皆校ヲキリ上ケ医科大學カ一
醫院ニ見物スルニ plan 甚ク不都合
ニシテ一室ニ八人モツクニ *hell* 百四
尺余ニ過キス甚ク不都合ニテウモ多ク
ハナラズ一時召テリ病室ヲ巡覽ニテ家
ニリヨリ夕飯ノ後津保町松井ニ赴キ
帰途 髻ヲスリ鼻下ノ毛ヲ剃シテ鼻下ニ
髻五ヶ分余ツニ近ビ一ナ髻ヲシテ見ユルニ
何トナク女孃ニナリ思ハルニ *せり* 曰レバ足
ハ曳ルコト見テシキル *無* 賛スルモ可笑シ
余ハ再ビ出直ニ買物ヲ行ク者ヲ求メ
家ニリヨリテ足ヲ押シテオサヘツ大酒盛ヲ始
メタルハ此頃ニ睡マシカケル次オナリ兩人
興ニ染シ面白クテ強ニ睡ニ十二時ニ至
テ所ニ寝テリ

十九日(金)

正午ヨリ家に於テ製餅ニツカハル田中
行徳兄ト試味スニテ伯(四年生)卒
ヲサシテ帰ルヤガテ酒宴ナリ田中
帰ル行徳兄ト中原史婦ガ互ヒ
「ン中」ノ競争不遠慮ノ競争、横着ノ
競争ナリ居ルコトナド評ニテ語レ
ルハ此頃ノ珍事ナリ行徳兄ト外
出余ハ論文ニツカハル山岡氏来リテ
午後三ツノ時帰ル余ハ再ヒ勉強ニツカ
サニ時夜ニ就ク

二十日(土)

正午ヨリ家に歸リテ矢張り日暮ニ及ハ
トスル頃山下来リ互ニ病ヲ差シ閑スルヲ
シテナス。然レニ雜院ニ移ル七時兩
人共ニ客舎ニ出カケテ。豊國宛ニ入リ
飲食ス余飲ム僅カニ三合ニシテ微
醉ニ至リ大ニ氣火角ヲ吐キテ滿腔ノ熱
概因ヒ送客酌ヲ棄一身ノ方針ヲテモ
脱キ出テ大ニ興アリ九時迄キコ
出テ山下トカ。邸ノ基子ヲ兼酒ヲ入リ
葡萄酒ヲ大腔ニテシカカテ飲ミ大ニ
醉フ。鯉島ノ堀ニ所来リテ在リコノ二人
共ニ大ニ笑ルニ至ルモノナラズ殊ニ鯉島ハ
根性宜シカラズ野郎ニテ卑劣ナル故余
モ何トナリ彼ヲ優ドリ彼モ余ヲ屑トセザレ
バ。院ヲ決シテ円滑ナラズ互ニ嘲弄メケル
コトヲ言ヒ合ヒテ十時半同座ヲ出テ家ニ
歸リ直ヤニ寝ニ就キタリ今夜ハ久シブクテ
餘程醉ヒタルモ妙ナリ

二十一日(日)

九時起き直ぐ勉強2トリかん十時田
中氏来リ十二時帰リ余ハ又ルヒタト勉強
スル内五時田中山岡兩人来訪
ス余ハ仕事ヲ中止シテラッセル等トナシ
手持タナケレバ酒ヲ出シテ興ヲ添フ
真水英夫七時半頃入り来リ同マハ足
立先生入り来リ其ニ大ニ飲ムソ中山岡
归ル余ト真水ハ重ニ病ヲ患フコトヲ研究
planヲ出シ足立ニモ見セテ批評ナドヲ
求メ居ル所ハ足立大ニ醉フタリ来リ更ニ酒
ヲ温メテ飲ム九時半頃田中、足立
兩人归ル兄ハ下ヘ行クコトヲ余ト真水ト
サシ向ヒニテ病ヲ患フ研究ス彼ハ研究家
ト云ハレタル丈ケアテ山部堂ト佐々木
隆、佐々木隆等ヲカキ廻リ病室ノ工
書者ノ設計表ナドヲシラベマフ然レ由中
エキ者ナシ知ルベシカニ之ヲ画シテ余等
未
ク氣付カザル一ツ也奇妙ナル事案ヲ持テ出
サ中々エキモノ知ルベシまいリ来リ
筆ヲ論文ノコトヲ言フテ互ヒニ大ニ氣
満
ヲ吐カシテ誓ヒタルハ近頃ニ痛快ナリ

二十二日(月)

五時半起キ出テ、論文ヲ草シ十時ニ至リテ全ク脱稿ス十一時半登接シテ同席友ノ論文ヲ見ル、真水ノ文ハ奇抜ニシテ詳細ニ意匠頗フル新奇ナリ之レヲ瀑布ノ断岸ヨリ懸リテ水煙朦朧ノ内ニ遠山ヲ忍ムルノ景ニ比スベシ山下ノ文ハ平易ニシテ詳細ナリト意匠新ナラス研究未ダ深カラス之ヲ一眸十里ノ郊原中所ニヤ丘起伏ニ樹木散在シ人衆出沒スルノ景ニ比スベシ河合ノ文ハ平易ニシテ簡短ニ意匠新ナラス研究深カラス之ヲ青草漫々タル一小丘ニ比スベシ而シテ余ノ文ハ山岨々タル累文ニシテ研究一部ニ深ク一部ニ浅ク意匠ナリ奇ナルモノアリコト一語ニ万丈ノ深谷ヲ望ミ一語ニ千仞ノ高岳ノ白雪皓々タルヲ見ルノ山景ニ比スベシトス一時中散座、幸甚ト寫眞トリ次テ余等四人共ニ歩出カケ上野公園ヲ巡回シ湯島天神内ニ至リテ西洋料理ヲ食ヒ次ニ山下ト別レシ人萬世格ヨリ渡政所ヲ經リ河合ノ

証人ハ其書肆ニ立テ書リ付島スルニ三十ハ
時七時迎余ハ家にリヨハ暫ク付島後
教寺ニ出カタルガ今日ハ妻師ノ爲ニ日ヲリ
既ナカルニ交後同以霞底往來ニ満シ群衆
立能ハ餘地ナシ余ハ大俗ノ俗心ニ起シ群衆
中ニ徘徊シテエカケ、頃ニ聞キルニ二十日
ノ費物ニ着目シテアキダラニ耳ヲ傾ケケルニ
寄シタルアザク考面入リテ大嘆一ホヲ作ル
ケサレ、快ヲ買ヒ再ヒ群衆ノ中ニ躍リ廻
リ記シ途中通化狂ニテ二十ヶ程立見カシテ
割、墓ヲ十ヶ程見物シ家ニハ十一時ヲ
過キテラフ、トモサレモマツザリテハ
雨戸ヲ開キ十五夜ノ明月ニ晴フキ十二時
後記、夜半声アリ嬢ハ然テ何事ノ妖怪
ゾヤ躍テ雨戸ヲ放テバ嬢娥月宮ヲ捲
テ逃シ去ルアリ何ゾカ知ラン今ツカヘ？
今日足田中ノ花船地方へ張リヌ

(水)
二十三日 (火)

早朝に原銅事へ御近頃大い酒を飲
ひ廻りてワズ昔夜引キ五コスレヲミテ
3度々に来りて原因ハ多分酒ナリト云フ
彼レ日ノ夜モ寢ニ就キ果タソ目見ノ夢ヲ
控テヤケスルノ點ニツキ酒毒一時ニ
発シタルモノナリト云フ余モ之ヲ聞テ他日酒
毒ヲ受ルノ思ヒモ覺ル。六時課業
ヲ終リ居テ、本モ之ヲ氣切リテ夕飯ヲ
喰ヒ流石に其ハ折ニ流シテ其ヲ
爽快ニバカラス点テ、到リ退キ余ハ
津名邦藏氏ヲ訪テ其ニニミナシ
兩人テ若井へ赴キ別名白味ナシ伯知ノ
講堂ト云々大ニ聞キハアツ他ハモデ
ワラスフバツ 我丈夫トハ雲泥ノ差
ガルナリ(同ノ四錢デモ)ト云々其ノ
我丈夫カレバヨイ夫レモシ注文ガアルヲ
男我丈夫ナバ生駒大ニ限リ女我丈夫
ナバ銀之助ト云々限リナリ決同ハ
多分儀之助ナリト書生連中ノ事ナリト
可笑シ十時半ハ子肥直ニツキ余ハ何カ
津名ト云ハル云ヒガ彼ガ不同云々ナリ

止ムニ致シテ家ニリヨリ日ヲ見ツツケテ
快ヨクナニ時愈ニ孔ッコノ日烈ノ風砂
ヲ飛ニ往來日暮ルタリ

二十三日(火)

例儀ハ、日暮リ、喰、ハ、山岡ヲ訪ツ
ミ、此處、正木幹、兩氏在リ、詮議能揚
大ニ興アリ、ヤガテ十時、毛龜ヲ捕チ、余ハ
同氏ヲ辭シテ、新當ニ出カ、本郷通リヲ
直進ス、已ニシテサシ、空腹ヲ覺ヘ、ク、余
直ニ、江知、勝橋ニ上リ、牛飲、馬食、シテ、大
ニ快ヲトシ、更ニ、余ハ、近頃、頭、ハ、合サト
覺ナリ、故ニ、飲シテ、更ニ、余ハ、飲ム、ガ、ハ、
ハ、ヤ、可ナシ、ト、碓氷、ハ、バ、エ、合、一、併、シ、テ
雲ニ、ナ、ハ、P、P、サー、イ、候、シ、酒ヲ、用ユ、カ、
シ、ト、ノ、標子ニ、登リ、行ッ、テ、大ニ、酒、飲、ム
ズ、ト、知ル、ベシ、十二時、事、終リ、カ、
ヲ、ラ、竊ニ、テ、
ラ、竊ニ、テ、

二十五日(木)

例) 通リ七時リ晩 夕飯ヲシ、メカシシ
 スル所へ山下、真水兩人オハ通シテコソ
 来リケン余ハテヲシテ人オハ揚ヒテ吹
 又キ夜セハ赴キテ大ニ聞ッ

東一 50 小竹 45
 田舎 60 錦 55

第二欄ハ次ナリ越ル一フ奇好ハシ、
 小竹、真水、姿勢、音調、何カ何ニテ 後ニ助ト
 符節ヲ合セテハズ、只ッ付シヨリ拙キ、シ
 コー事サシ不事ヲ寫ス、材料ナリトソ。
 真水、余、夜ハ再ヒ東ノ十時半リカ余
 彼ノ同屋ニテ、本ノ一車野カヘ赴キ
 大ニ飲食シ、酒、吹キ、命、扶、抱、レ、
 水ニ事、酒ニ召シ余、五合、酒ヲ尽シ
 大ニ酔ヒ家ニリカテ夢中ニ寝、
 夜半夢サメテ見、余、床ニ臥カズ
 シ、ウタ、子ノマ、ナリ余ガ近頃、一々
 解ト云ヒテ可ナレ

二十六日(金)

今日大内廻之めト云フ旧友今ハ妻佐也ナリ
到リ白河ヨリ上野スル由ニ付キ出迎、用
意アリバ余ハ早朝山岡ヲ行キ次ニ赤松金
至リ次ニ登校十一時過キ赤松金ヘ行キ
同友ト上野停車場ヘ赴ク時若干ハ早ニ
即ハシ余ト之ニ会テ、中山路ヲ、ト三人上野
公園ヲ散歩ス余ト中山ト之ニ会テ朝ハカ
洋スル此ニ会ハヤヒテ應セズ三人返リ赤松
園ヘリテ巡覧ス同園ヲ出テ上野マテシ
ニ至リ大内ヲ待ツ十二時ニ至リ大内着キ
余等ト会テ其妻ヲ送リ余、山岡、之ニ、
中山、本宅、邸内、ヲ若人上野赤松園
ニ登校ス其妻ヲ送リ中ノ興味アリ余ハ
其内ヲ再ヒ若氏ニハ登校日暮大雨
トナル余ハ直ニ山下ノ三人ト共ニ同ヘ行
キ飲食ス振浦、赤松、中原ニ至テ其妻ト
偕行ス振浦余ハ其妻ヲ送リ次ニ赤松、伊
東子ニテ其妻ヲ送リ余ハ其妻ヲ送リ赤松
ト余笑テ曰ク、君等ノ安否ヲス勿シ君ハ
沈黙見ルハ以テ聞ス而シテ余ハ其妻ヲ
憐レバ君等ノ安否ヲ送リ余ハ其妻ヲ

聞ん出つ、日博習ヲトナズンバ博ヲ必ニ起
スルヲアツシ然レド余、髯ハ胆カ家胆ヲ啓カス
タ絶大ノ奇カナル哉ト旌南懸然レハ其
ニ人豊國ヲ去レ井山下真水の時ヲナサテ已シ
振中ノ入レ去ン真水ト余トビール家ニ入レ大
飲レハ後真水ヲの時ヲナサズ知リ周章ヲ
振ス余知ツザルマ子シ其ニ其ノ家ヲ去レ共
ニ豊國ニテ叩キ匿路ヲ檢ス真水ハ其ノ
處ヲ呈シマサニの時ヲ終失フ由テ出ントス
至リ而シテ余ハ其ノ家ニ入リマ子シ引
レテ家ニ入リ倒レタル子シテ其
事ニ至ン

二十七日(土)

ハの夜明け直ぐ焚火して墨ヒテ余ハ
自ラ深ク悔ミ直ぐ車ヲ取リテ直ぐ三ツ石の時
三ツ石ハハスルニ行キ(高)ツタ余ハ再ビ登ル
六時ノ如ク直ぐ一食ミ車ヲ取リテ内ヲお車
印氏ヲ誘フ然レバお車ニ乗スルハ実島ノ幹
モ取カレテ車ヲアリ大ニ雨高ク張リ船ヲ出
出ス次ニ足ヲ車ヲ取リ船ヲ出シ(要アリ或ハ我
等ニ或ハ船ヲ足ニ走リ船ノ余ハ幹ノカ
カレテ車ヲ取リテ取リ船ノ余ハ更ニ幹ノ
ソハツ包ニ装ヒ足ニ乗リ船ノ余ハ更ニ幹ノ
カ針ニ装ヒ船ヲ又余ハ内ヲお車ニ乗スル
船ヲ起シ船ヲ出ス

- 1 余ノ次ニ同家ニアツタヤタル
- 2 足ヲ取リ同家ニ入ル第一得タルモノ
- 3 内ヲお車ニ乗ル船ヲ出シ
- 4 " " 空手ニ乗リ船ヲ出シ
- 5 余ヲ自ラ減カシ船ヲ出シ
- 6 内ヲお車ニ乗ル船ヲ出シ、清潔
法ヲヨク行キ居ルベシ

暮ナリ十二時ノ意ニシテ今日足ハ
孤クツカセシ

二十八日(日)

幸モ是モ寵辱ノ交々ニシテ是レハ心ヲ煩中
まり大ニ定カスハ時事重校十時半頃
利ッ家ニ歸リ食飲ノ樂ニ沐ルニテ其ハ
城ヲ流シ大橋曲ノ所ヘ歸テ乃東風カ大
春天ニ極メ来リ番時事ヨリ四人ニテ田中
ヲ訪テ其ニハ幸多ク之ヲ除ケ外ニ同
集事セリ其ノ中黒ニ至リカフベシク其
利ニ寄與ストリ一全解散余ハ其處ニ
テ七時マテ甚固ニシカリ其後夕飯ヲ
喫休息ノ後車ヲ罷シテ神保町ノ花井
ヲ訪ヒ次ニ久ルニテ平田ヲ訪フ其後
字ニテ其母トニ見トアツ下女ノサレ又同
ニ此テ代リ見別シ又九ボトノ顔ノ新造ト
其レ其母ノ腹ハホテト来テモハ月位
ニナリ其家ニ其母ハヨクモ子ヲ産ム人
リ其後凡テ三十ノ年ヲ余ハ今年ニ十
ニナリ其母ヲ生シタル丈ナリ其母トテ其
エ合モサレ上手ニナレテ自ヲ知レリ
然レバグ下手ナレバ余ハ何レ其處ニ
三期モテ二見ハ相カラス其然レテ其
取リ捲キテ戯ルニ其母ヲモ愛ラシキ人ナリ

= 七九日(月) ㄱ

午前十時過ぎタリ早稲栽培学校生ノ休
ヲ得ル余、Guthrieガ持持ル又々他ノ
途カ勝リタル信ス辰野ハ残酷ニモ数
ニ余等ヲ批難セリ余、意匠ハ、駿場ヲ富士
山ヲ欠ル風韻アリ、公平ノ如ク、バ
九十点ヲ與フベシ直ニ、意匠ハ、辰野山ヲ
批難シ、欠ル風韻アリ、八十点ヲ与フベシ
沙合、意匠ハ、上野山ヲ、芳原ヲ見渡ス、
俗氣アリ、七十点ヲ与フベシ山下、意匠ハ、豊田
屋ノ、橋上ヲ、上野ノ、表ヲ欠ル、俗氣アリ、六十点
ヲ与フベシ又五時四十分ス日暮ヲ夜席吹
又キハ赴ク、久ト行徳氏ト次テ至ル

ナ竹	60	太切記
小酢	90	シゴタ
岡光	65	ヒザクリ
錦	85	五斗ナマ

和達 平野 死骸ナシ 鳥又ニテミ人ナシ
ミ 散碎以上ニ重リ 十二時降シテ 寝
付タ

三十日(火)

早朝登校日暮帰宅矢暮義助の
日出豆ノ由ニテ今夜来訪スルモナレ大
内方ハ切テ訪来アリバハ紙ヲ残置ナ余ハ
足ト田中ヲ訪テ田中大内ノ子死ナリト云
リ即ハヤ田中白方ニテテモ法又即死
モ象ニ来ル余ハ草紙ナドヲ見テ来シハ
浮酒島トナルモ法百出鷹田化学
家高岸謙光氏ハ^{Winkley}ノ製造法ヲ
發明シテ米國ニ赴キ之ヲ2000000磅
即チ一千万円ニテ賣リタリト云フ又
津田健次郎ハ嘗テ吾ガ中野ニテ選考セ
レモナルガ今大子三年モテハナリノ製
造ヲ發明シ^{patent}ヲ得タリト云フ誰
モくエライニハ吾ノ余如キ等オハ一生
ノ甘イ發明ハ出来ナイ様ニ思ハレル(ヤ
ハ氣ノナリ)夫レヨリ吾等ノ天稟ヲ平シ
クノ在通中ニル職業ヲ評スルニ在ルニ

大内丑之助

行政官

田中苗左郎

理学家

本宅恒次郎

文学家

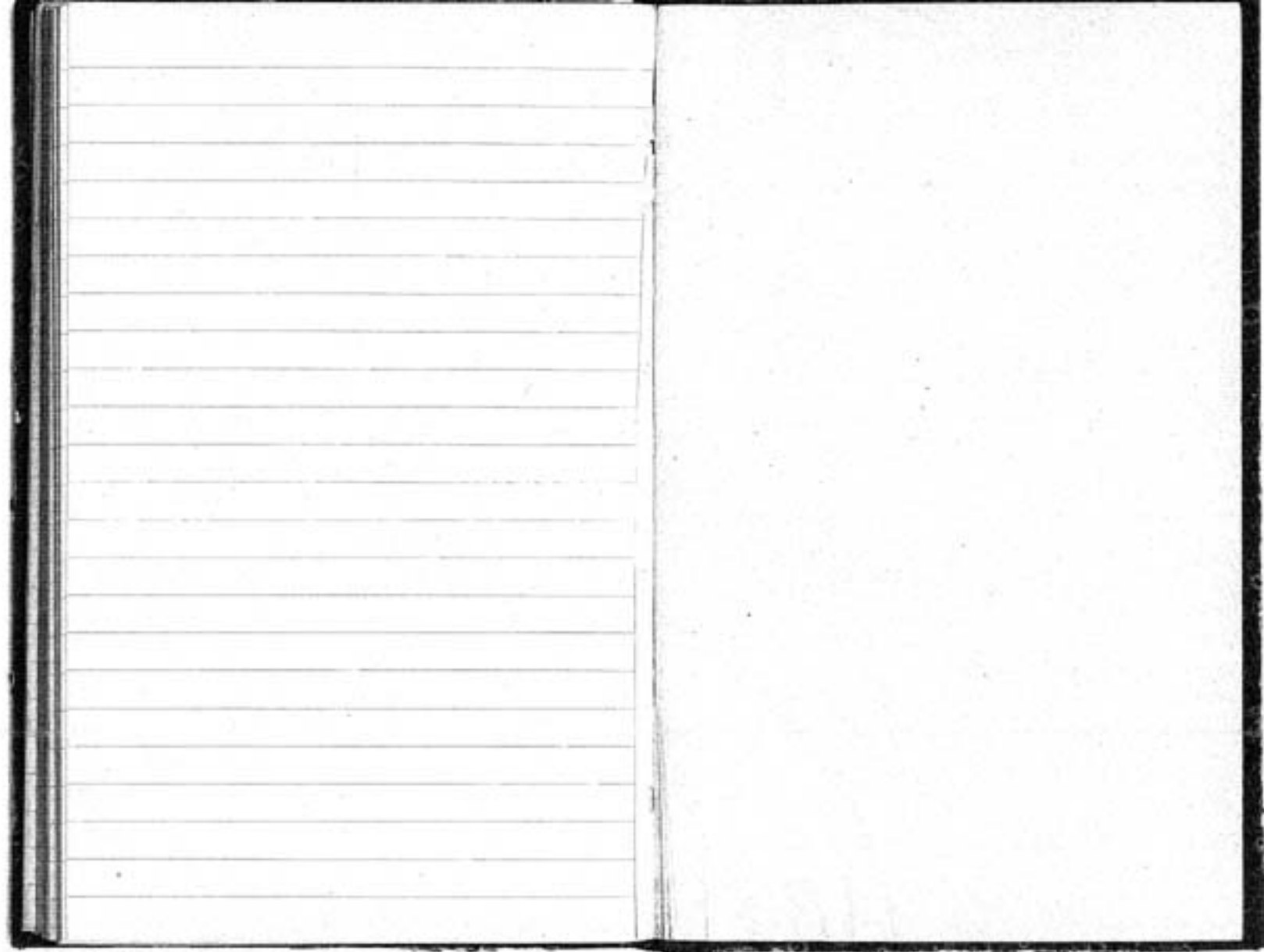
伊原義光

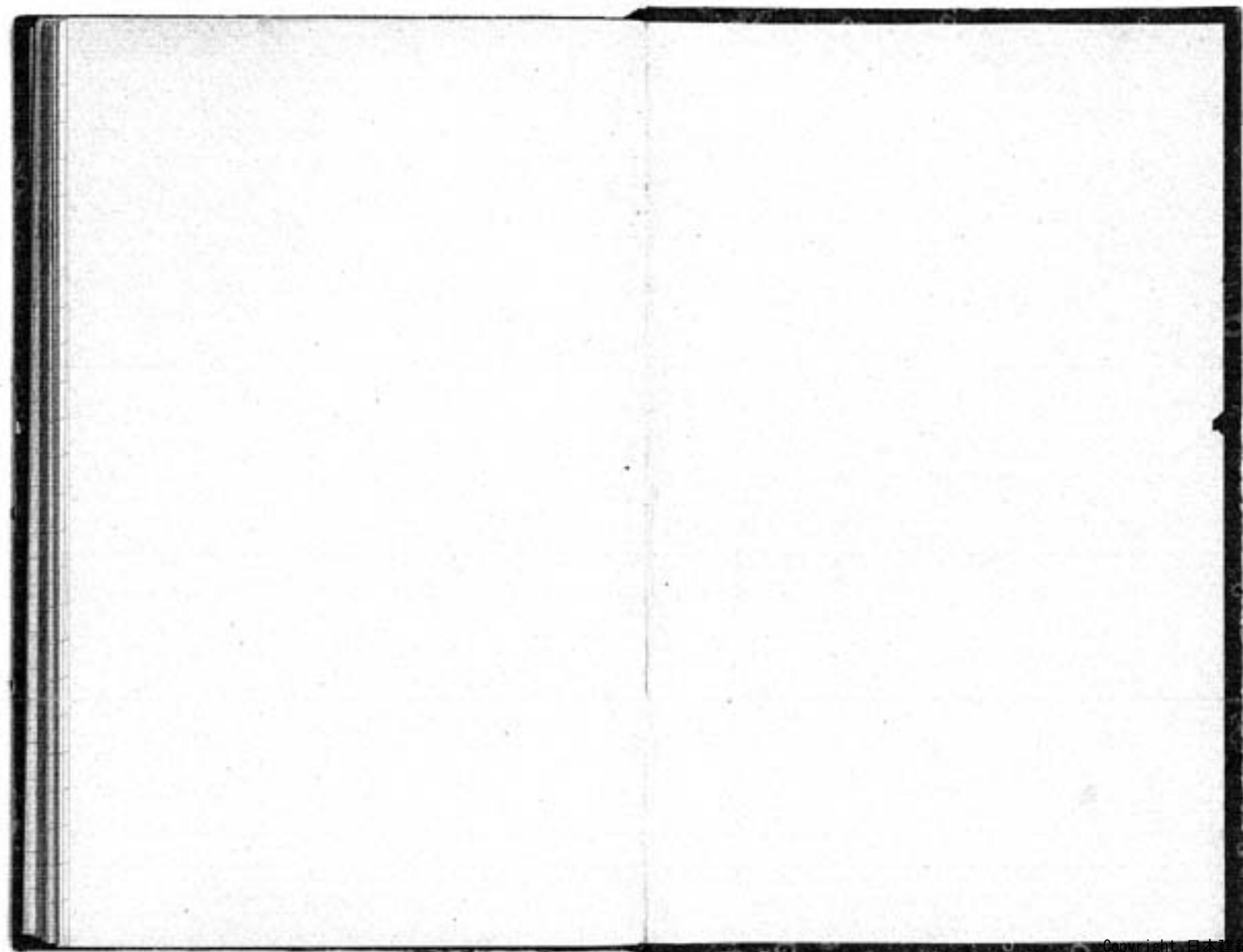
検事

邦邦知事 今社支配人

而し余、自ら送客、通シタト思フ由リ讀
じ、田中ハ然ラスト云ヒ、君ハ一併訪客ガ
キラヒニ且、得テノ方、此ノ故、到底、俗
豪ハ工料ニハ不4ナリ、文オアリト云ヒ外
所ダガ、コレモ左様ニハアラス、君、おまナオ
ナル人ハ、医者ガ尤モ通シテ居ナラン、ト
云ヘリ、余、哀、たテ、自ラ深、耻、且、ツ、4登、
リ、余、オハ、果シテ、医ニ通スルオナル乎？田中
、必ス本心ヨリ出テ、其、ク、云ヒシヲ、レガ、内、故、
余、オガ、医ニ通スルト、災、エルナラン？余、医ニモ
ナレ、ル、バ、ケ、レ、モ、決、尤モ、医ニ通シタル人間トハ
自ラ思ヒモ、ヨラザルナリ、余、矢張り、送客ナドガ
マ、一通シテ、居、ル、ト、自ラ思フナリ、併シ、何カ、カ、一
番、ニ、通シテ、居、ル、ハ、自ラ、白、状、ス、レ、バ、何、ニ、モ、無、イ、ト
云フ、ニ、ナル、実、余、万人ニ、抽、テ、タル、特、技、ナ、レ
余、千人ニ、勝、レ、タル、特、色、ナ、レ、余、百人ニ、優、リ、タ、ル
特、性、ナ、レ、余、或、十人ニ、優、リ、タ、ル、一、能、ア、ラン
乎、然、レ、モ、大、内、田中、等、ハ、已、ニ、百、千、人、ニ、勝、レ、ル
ノ、特、能、ナル、ヲ、信、ス、嗚、呼、余、及、ハ、ズ、余、
及、ハ、ズ、嗚、呼、余、不、及、不、及、嗚、呼、余、モ、亦
タ、凡、俗、漢、ニ、屈、キ、ザ、ル、乎、然、レ、モ、凡、俗、漢、ナ、リ

或ハ凡俗以下ニアル乎余之ヲ思フテ奮然
ヲ。今日迄家三年生ノ製団ノ日限ナリ田島氏
等ノ團ヲ終ルヲ不能辰野博士ハ彼ヲ終ル
セシメテ又サレ又菅田ト云フ一年生ハ
ニ歳ヲト定メテ又一年生六人何レモボシナ
斗リナリ其無キズナレハ長野氏一人ノ地ナ
十點以下モノニサレサレ四サレ而シテ菅田
ハ五サレアリ鳴子一年生ノ僕直モ其知ルベ
シニ迄家サレサレサレサレサレサレサレサレ
ナル而シテ其地強敏速能技ナレハ二年生
即ハサ余等ノ限ノ如キモノ未ダ電ナシト云
フ而シテ余ハコニ年限ノ首サレサレサレ余モ
亦タマンザラノ愚物デモナキモノ乎？十一
時田中ノ歸シ家ニリテ大ニ辟サレ
十二時寢就ク今月モ日出ルヲ終ルナ
アミダブツ





明治三十四年

自五月十一日

至六月三十日

第十

10

10

M.24. 5.11
~ 6.30

うきよたび